

イエメンの都市と広場についての考察 1994～1995年第5回海外都市広場調査報告

芦川 智

The study about cities and plazas in Yemen —The report of 5th survey in oversea area—

Satoru Ashikawa

Yemen is one of the islamic countries in the arabic world. This report is the introduction of Shibam, Sana'a and some other cities in Yemen. Both two cities have million years history. Sana'a is the capital of the republic of Yemen. Sana'a and Shibam are both old cities that have had city wall in old time. Now in Sana'a there is only small part of old city wall. But in Shibam there are almost perfect style of old city wall. The city elements of Sana'a are ① city wall and city gate ② highrised houses ③ sooq and square ④ mosque and minaret ⑤ han and hammamu ⑥ shitader ⑦ walled garden ⑧ wadi. The city elements of Shibam are ① city wall and city gate ② highrised houses ③ sooq and square ④ mosque and minaret ⑤ palace. The size of two cities are different. Sana'a is bigger than Shibam but these two cities are similar to each other. One of the similarity of the cities in Yemen is tower house. And the other one is hilltop city.

(1) はじめに

都市広場の研究は、当研究室の課題として取り上げられたのは1984年であり、今から13年前となる。第1回は東欧地域とし、2回目は東欧及びトルコ地域、第3回目はトルコ・ギリシャ地域、第4回目は北欧・フランドル地域と、それぞれ関連づけながら地域を拡張して調査を実施してきた。この研究は、フィールド調査を行いそれを一方でまとめていく分析手法としての形態学手法の適用対象として都市広場を扱っていくことが一つの方向として位置づけられてきた。イエメン調査を考えたのは、対象地域としてのアラビア半島南端のイエメンは、イスラムの国家であると同時に、古代から豊かな地域として、ハッピーアラビアの伝統の上に歴史あ

る都市形態を観察できる事が、テーマとなっていたからである。特に北イエメンと南イエメンの政体が一体化されて間もないという時期であり、また、シバの女王の伝統ある歴史に触れる事も加わり充実した調査が期待できたためである。今回は、第5回目の調査として示すものではあるが、実際の調査は1994年と1995年の2回行われたものであるが、この2回の調査は、当初から2回を企画したものではなく、第1回目の調査が内戦に遭遇してしまったために致し方なく2回目を企画したというのが実状である。また、第5回の海外都市広場調査としてのイエメンの調査報告が遅れたのも、以上の理由によるものである。第6回、第7回の報告は、学苑(655,671号)に掲載されているので参照

されたい。

(2) 調査計画

これまでに行われた海外都市広場調査の概要を以下に示す。

第1回海外都市広場調査：東ヨーロッパ（ドイツ，ポーランド，チェコスロバキア，ハンガリー，ユーゴスラビア5カ国）を対象として，平成2年9月初旬から25日間実施した。

第2回海外都市広場調査：東ヨーロッパ（ハンガリー，ルーマニア，ブルガリア，トルコ，ギリシャ，イタリアの6カ国）を対象として平成3年8月初旬から28日間実施した。

第3回海外都市広場調査：トルコ，ギリシャ2カ国を対象とし，ヨーロッパ文明の根底を探ることを目標として行われた。それと，イスラムとの融合によってどのように都市が変化していったかをたどる事が出来た。実施は平成4年7月末から27日間である。

第4回海外都市広場調査：北欧とフランドルを中心としてドイツ，スイス，フランスを付加的に加えて調査が行われた。特に注目したいのは，ベルギー，オランダのいわゆるフランドル地方の都市の形態であった。実施は平成5年9月初旬から18日間である。

なおすでに報告済みとなっている第6回と第7回についても以下に示す。

第6回海外都市広場調査：イタリア北部地域調査である。平成6年7月末から25日間の実施であり62都市112広場を調査できた。

第7回海外都市広場調査：モロッコ・スペイン・ポルトガルを対象地域としてイスラム教文化圏とキリスト教文化圏の融合と乖離をテーマとして行われた。平成7年8月21日から29日間実施された。

今後第8回から10回に至る調査の課題は，未だ行っていない地域としてイタリア南部地域とヨーロッパ中央部，それに対比的にイスラム文化圏やアジアの文化圏を取り上げていき，第1段階のまとめとしていきたいと考えている。

(3) 調査概要

第1回目の調査

①調査対象国 イエメン

②実施期間 1994年5月3日～5月12日の10日間

③調査メンバー

調査研究責任者：芦川智（生活機構研究科教授）

調査協力スタッフ：金尾朗（生活美学科講師）

調査研究責任補助者：金子友美（生活美学科研究助手）

外部研究者：松尾瑛（建築計画研究所主宰）

同：小嶋一浩（東京理科大学助教授）

同：小嶋和佐（城戸崎和佐建築設計事務所主宰）

昭和女子大学大学院生：田中優香（生活機構研究科2年）

④1994年調査日程（実施前の予定）

5月3日(火) TOKYO→(SU576)→MOSCOW→

5月4日(水) ADEN泊

5月5日(木) ADEN→SEYUN→SHIBAM→
TARIM→SEYUN泊

5月6日(金) SEYUN→SHIBAM→TARIM
→SEYUN泊

5月7日(土) SEYUN→SANA'A泊

5月8日(日) SANA'A→SHIBAM→THULA
→KAWKABAN→AL MAHWIT泊

5月9日(月) AL MAHWIT→HAJJARAH
→SANA'A泊

5月10日(火) SANA'A→AMRAN→
KULAN→HAJJARAH泊

5月11日(水) HAJJARAH→SANA'A

→(IY408)→ADEN→(SU448)→MOSCOW

5月12日(木) MOSCOW→(SU575)→

5月13日(金)→TOKYO

上記日程となる前に3月13日から31日までの調査計画を作成し、実施を待つ状態であったが、イエメンのYATA(旅行社)から、情勢があまり良くないので計画を延ばしてほしいとの連絡が入り、航空券を手配済みであったものをキャンセルして時期を待った。そして、5月予定を組んで先方と交渉して実施できるであろうとの感触をつかんだので上記の日程で調査を実施した。しかし、第3日目にDHAMARで内戦が勃発し調査を実施出来る状況でなくなった。実際の行程は以下ようになった。

5月3日(火) TOKYO→(SU576)→MOSCOW→

5月4日(水) ADEN→(IY856)→SANA'A泊

5月5日(木) 早朝にイエメンでの内戦勃発が知らされ、ホテルで待機となる。日本大使館に連絡し、指示を仰ぐ。待機せよとのこと。

5月6日(金) SANA'Aでのホテル待機1日中。空爆と対空放火に悩まされる。日本大使館に行き情勢を聞く。

5月7日(土) SANA'Aホテル待機 アメリカ軍がアメリカ人360人の大挙脱出を計画して実行する。(空軍機を使用してリヤドに脱出)

5月8日(日) SANA'Aのホテル待機。フランス人やドイツ人が個別に脱出していく。アメリカ軍に脱出依頼ができそうであった。

5月9日(月) 現地エージェントの誘導でフランス大使館経由で脱出の機会を得られそうであったが、確実性が薄く、ホテルで待機していたところ日本大使館よりドイツ空軍機での脱出に付加できることを知らされ、急遽ドイツ大使館におもむき、日本人64人の中に混じり脱出する。SANA'A空港よりドイツ空軍機で脱出したのが午後1時。ジ

ブチのフランス軍基地に到着したのが午後3時。その後フランス軍キャンプに入るが、現地ホテルと電話で連絡して交渉しジブチ市内のホテルへ脱出。

5月10日(火) ジブチからアエロフロートの特別便が飛ぶ情報を得て午後11時ジブチを離れる。SU452便

5月11日(水) 午前7時頃モスクワ到着。SU447便にて日本へ向かう。

5月12日(木) 午前10時 東京成田空港へ到着
この調査実施における成果はアデンでの半日の視察程度のために、ほとんど無いといって良い状態であった。そのために、次の年に再度イエメン調査を企画した。というのも、イエメンでの内戦は3ヶ月で終結し、北イエメンが南を征する形で決着をし、1994年のうちには、平穏の状態に戻ったとの情報を得たからである。

1995年5月の第2回目のイエメン調査の行程予定表を以下に示す。

表-1 調査行程表

図-1 調査行程図

第1回目の調査実施は7人のスタッフによって企画し実施できたが、第2回目の調査実施は、芦川智1人の調査実施となってしまった。しかし、第1回目に企画した行程をほぼ踏破し、サヌアとハダラマートのシバームを中心としてイエメンの諸都市を調査することができた。

(4) 調査内容と方法：

調査対象として選定された都市あるいは集落に到達した場合、まず、その都市あるいは、集落の中心と思われる位置を探し当てる。この場合、都市の住民にその都市の中心はどこかをヒアリングしながらアプローチをする。センターと思われる空間に到達した場合、そのセンター

YEMEN TRAVEL PROGRAM

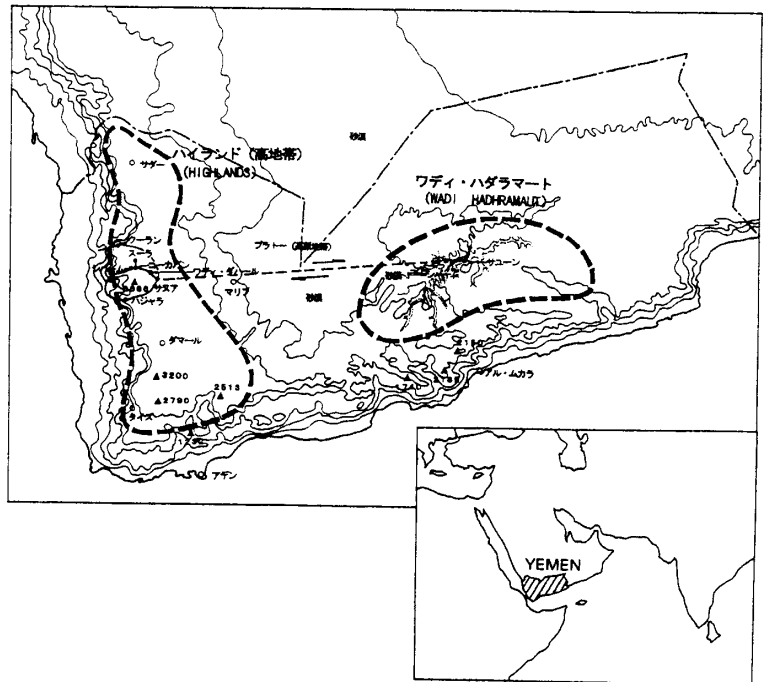
April/May 1995

22 SAT	Tokyo - Moscow	au586	13:00	18:25	Aerofloat	OK	flight	**
23 SUN	Moscow - Cairo	SU441	12:50	15:05	Aerofloat	OK	flight	**
24 MON	Cairo - Sana'a	MS767	17:30	21:40	Egypt air	OK	flight	**
25 TUE	Sana'a in the old city							**
26 WED	Sana'a in the old city							**
27 THU	Sana'a - Seyun	Y320	8:45	8:45	Yemenia	OK	flight	**
	Seyun - Shibam - Tarim							**
28 FRI	Seyun - Shibam - Tarim							**
29 SAT	Seyun - Sana'a	Y419	8:30	9:30	Yemenia	OK	flight	**
	Sana'a							**
30 SUN	Sana'a - Shibam - Thula - Kawkaban - Al Mahwit							**
	research point	arrival	start	dist.(km)	stay(min)			
1	Sana'a		7:00					
2	Shibam	8:00	10:00	45	120			
3	Thula	10:15	12:15	9	120			
4	Kawkaban	12:30	13:30	14	60			
5	Al Mahwit	15:00	stay	75	60			
		8:00	hours		143	km		
May								
1 MON	Al Mahwit - Hajjarah - Sana'a							
	research point	arrival	start	dist.(km)	stay(min)			
1	Al Mahwit		7:00					
2	Manakhah	9:30	11:30	117	120			
3	Hajjarah	12:00	15:00	25	180			
4	Sana'a	18:00	stay	107				
		11:00	hours		132	km		
2 TUE	Sana'a - Hajjah - Sana'a							
	research point	arrival	start	dist.(km)	stay(min)			
1	Sana'a		7:00					
2	Amran	8:00	10:00	50	120			
3	Kulan	11:00	13:00	43	120			
4	Hajjah	14:00	16:00	22				
5	Sana'a	19:00	stay	93				
		12:00	hours		208			
3 WED	Sana'a - Moscow	SU462	10:10	22:00	Aerofloat	OK	flight	**
4 THR	Moscow - Narita	SU675	18:20	9:40	Aerofloat	OK	flight	**
5 FRI	Narita	su675		9:40	Aerofloat	OK	flight	**
	member	1persons						
	SATORU ASHIKAWA							

表-1 調査行程表

**:changing from previous paper

図-1 調査行程図



としての空間がいかなる形態をなし、都市全体の中でいかなる位置づけとなっているかを判断し、周辺の施設・建物の内容を調べると同時に、その形態的特徴を記述してゆくことが、直接の調査方法である。その具体的内容を以下に示す。

都市広場の形態と都市全体に於ける位置づけ
文献で、都市プランの補足調査をする
広場周辺のファサードの形態と装飾状況
広場の使われ方調査
広場のしつらえ状況 等

今回のイエメン調査にあたっては、事前に文献を入手可能な資料があったので、現地調査での第一段階で予想される都市の形態の把握は事前に行うことができた。しかし単独調査と限られた時間のため満足のいく調査実施には至らなかったが、単独調査という点ではかなりの成果があったといえるであろう。

直接の調査に使用する機材は、カメラ、スケッチ板に限られた。また、現地のエージェントがレンタカーとドライバーとガイドをセットしてくれたので、現地のヒアリングに当たるものはガイドに任せることができたので、内容的には、的確なものを得ることができた。

(5) イエメンの概要

アラビア半島は砂漠地帯がほとんどを占めていると考える人は多い。しかし、実際にアラビア半島を南下すると、徐々に標高が高くなり、ついに3760メートルのノビ・チュアッペ山を有する山岳地帯へと至ってしまう。これがイエメンの中央部である。つまり、アラビア半島の南西部をしめるイエメンでは、年間降水量1000mmに達する山岳部を擁していると同時に、海岸線の低地部分では、高温多湿の灼熱の町アデンが位置している。西側の紅海部分はティハマ地方と呼ばれ、やはり高温多湿の熱帯となって

いる。(図2参照)

南のイエメンに始まり、北のイラク・ヨルダンに至るいわゆるアラビアは、「砂漠のアラビア」、「石のアラビア」とそれに「幸福のアラビア (Arabia Felix)」と呼ばれる地域に区別される。砂漠のアラビアはもちろんサウジアラビアを中心とした地域をさし、石のアラビアは北部のシリア・ヨルダン等をさす。幸福のアラビアとは、緑豊かな国土を有するイエメンの代名詞である。アラビア半島の歴史はイエメンが最も古く、紀元前8世紀からはじまる。これがシバの女王の世界である。古代アラビアでは交易ルートが、図に示されるようにイエメンを縦貫して通っていた。(図3参照)

イエメンの歴史は、シバの女王の古代から始まり、長いイスラム時代を経て、南北に分断される近代へと至る。北は王制を駆逐し民主勢力によるイエメン・アラブ共和国が、南は、イギリスを排除してアラブ世界初の社会主義国家イエメン民主人民共和国が独立する。そして南北対立の時代が30年ほど続き、その間に激しい内戦が3度勃発したが、最終的に1990年南北統一がなされ、現在のイエメン共和国が成立した。ちょうどベルリンの壁が崩された年と呼応している。(図4参照)

歴史が長く、多くの国が興亡し、守りの構えが町の基本的なスタイルとして定着したイエメンでは、山岳都市と塔状住居の伝統がしみついている。山岳地域だけでなく、砂漠地帯でも、塔状のスタイルは失われていない。ある本には、イエメン人はもちろん守りという体制を組む本質を持っているが、それと同時に眺めの良い高いところに住みたい願望を常に持っているのだとの記述がある。塔状の伝統が、いつの間にかその利点を好みに変えてしまったのであろう。

アラブの田舎と称されるイエメンは、世界の主流から取り残され、歴史ある国土がそのまま

Crosssection from Hodeidah to Mareb

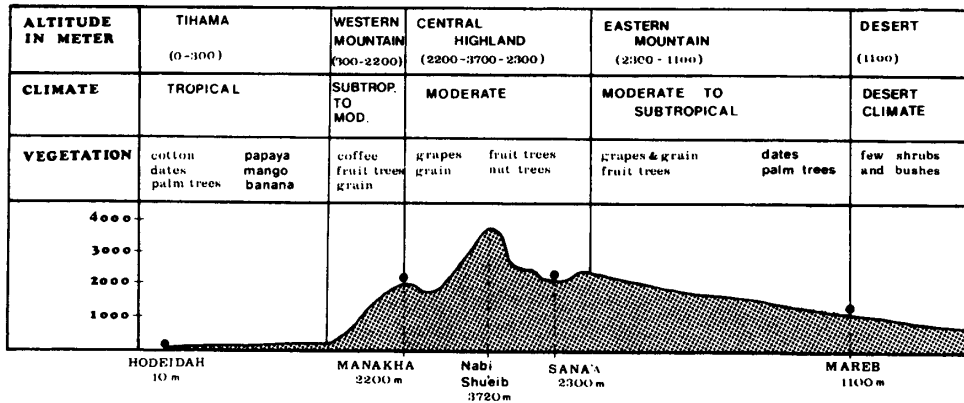


図-2 ホデイダからマリブの断面図 (出典：文献10)

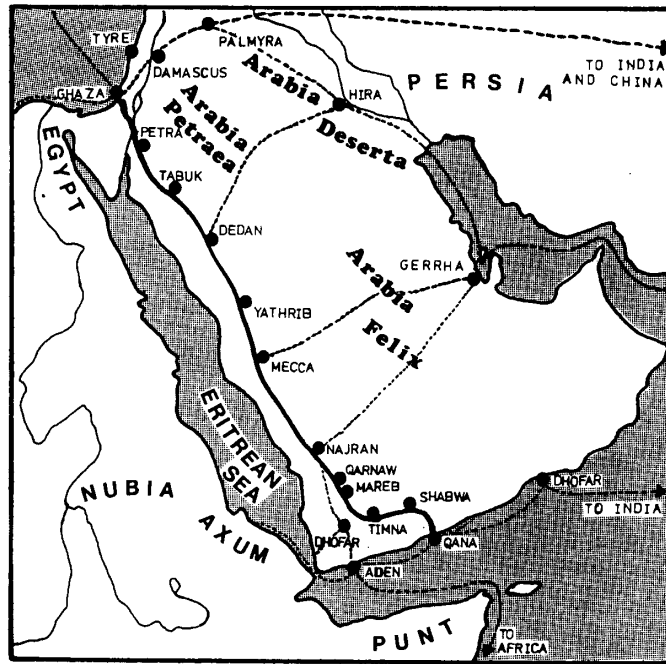


図-3 古代アラビアの交易ルート図 (出典：文献10)

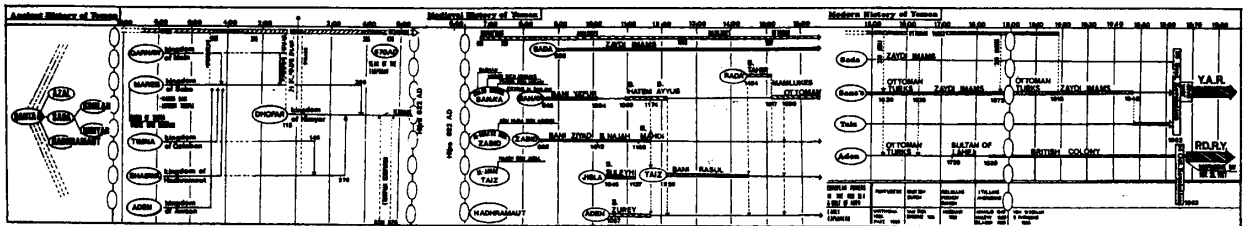


図-4 イエメンの歴史年表 (出典：文献10から合成して作成したもの)

保存されており、伝統と文化を守り、1000年近い年月を経た当時の建築と都市の文化をそのままに見ることが出来る生きた博物館である。

イエメンの風土は4つに区分される。第1は、紅海・アラビア海に接する低地部分で、高温多湿の熱帯である。第2は、サヌアを中心に南北に広がる3000メートル級の山が連なる中央高原山岳地帯である。第3は、東部地域で、ハダラマートの谷を中心とする砂漠地帯。第4は2と3の間に広がる東部丘陵地であり、山岳から砂漠へ移行していく中間地帯である。このようにきわめて多様な気候を擁し、しかも標高0メートルから3000メートル級まで多面的な様相を示している。今回は、第2と第3の地域を対比的に紹介するものである。

建築の材料として使われているものは、石材と日干しのレンガである。山岳地帯はほとんど石材のみで作られているが、砂漠地帯は、日干しレンガを主体としている。北緯15度付近を中心とすることより高山帯といっても夏期は厳しい日差しが照りつける。塔状住居は、6～8階程になるが、それを石積みあるいは日干しのレンガ積みで組み上げていくのである。山岳地帯では、石材で壁面を構成する形態であるが、3000メートル近い標高の盆地のサヌアでは、日干しのレンガも使われている。6階から8階に及ぶ塔状を持たせるために、下層の2層部分程度を石積みとし、その上に日干しレンガを積み上げる混合の手法もあちこちで見ることが出来た。

山岳地帯の交通手段は4輪駆動のジープが圧倒的な多数を占めている。日本車のシェアが90%に達していると言われている。段々畑と塔状住居と細い山道では、就学率は低いように感じるが、各所に学校は配置されており、問題無いのだとのガイドの弁である。

(6) 調査対象となった都市の概要

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES - 1～26のカード資料参照)

1. シバーム SHIBAM (ハダラマート)

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES - 1～8参照)

元の南イエメンは砂漠が多い。ワデイ (谷)・ハダラマート(SAIYUN-2 参照)とは、全体をつなぎ合わせると長さ200kmに及ぶ巨大な谷筋であり、シバームはこの谷筋の底に立地する都市である。ハダラマートの谷は堆積した砂地で、雨が降れば巨大な流れを作るが、風土としては砂漠気候に属する。雨期に流れる雨のために肥沃な土ができるのであろう。台地の上は岩盤で人の住めるところではない。谷の幅は2kmから広いところで15kmに及ぶところもある。台地の上と底の谷との標高差は、300mに及ぶところもある。常に台地が迫っている風景が背景となっている。シバームは、“砂漠の摩天楼”と呼ばれるように5階から8階建てがほとんどで、高さは30メートルにも及ぶ。その主要部分を日干しレンガで建設しているのである。そのため、下層の壁は、極めて厚く、中には、部屋よりも壁部分の面積が大きく取られている事例も見られる。(SHIBAM-3 宮殿の平面を見るとこの事が明瞭である。) シバームは紀元前4世紀にはハダラマートの地域の都として存在した歴史を有している。現在の人口は新しいスプロール部分を含めて10000人前後のようである。

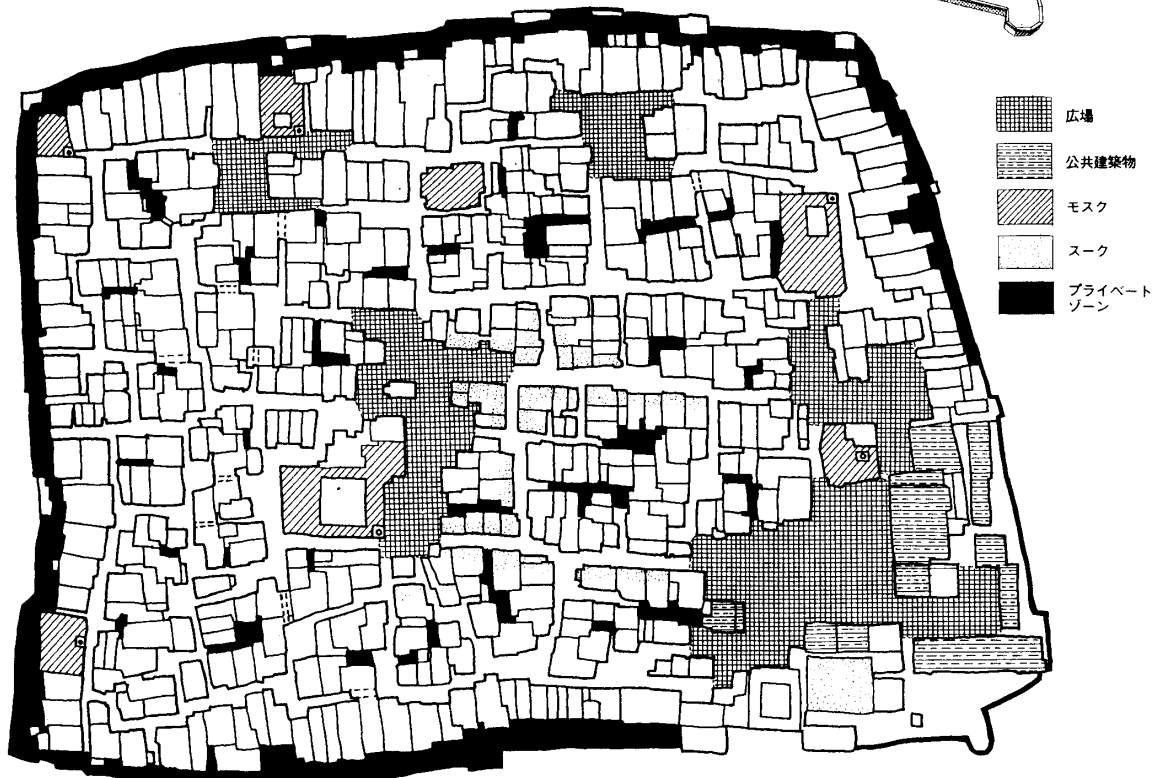
城壁の内側には7つのモスクと5つの広場、宮殿とスークと一つの城門で構成されている。城門脇には学校も配置されている。城壁の内側で立派に自立できる都市となっている。旧宮殿に現在ではユネスコの保存活動の本部があり、シバームの都市の保存調査活動を行っているという。旧市街の全体の規模は約300メートルかける200メートルの長方形をなし、一つの城門からはいる。城門を入ると宮殿や、学校、商業

SHIBAM-1

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-1



シバムの都市図を元に描いた鳥瞰的透視図である



都市図 (出典: MUD BRICK ARCHITECTURE) を元にその空間構成を描いたもの

SHIBAM-2

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-2



ハダラマートの谷は、この地点で約6 Km. そのオアシス部分中央にシバームは立地。

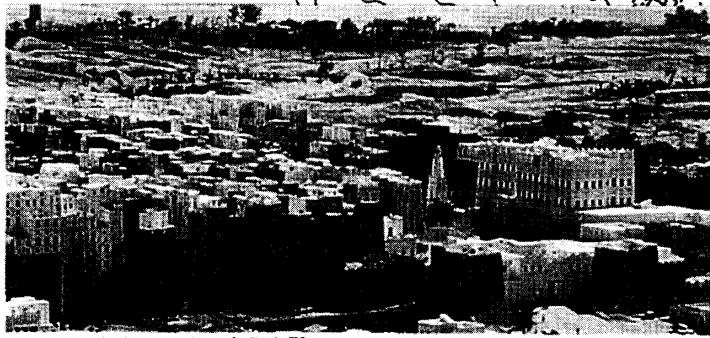
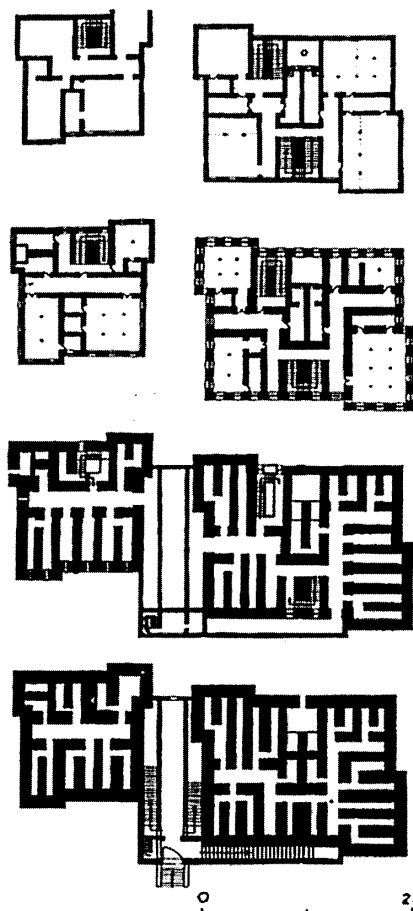
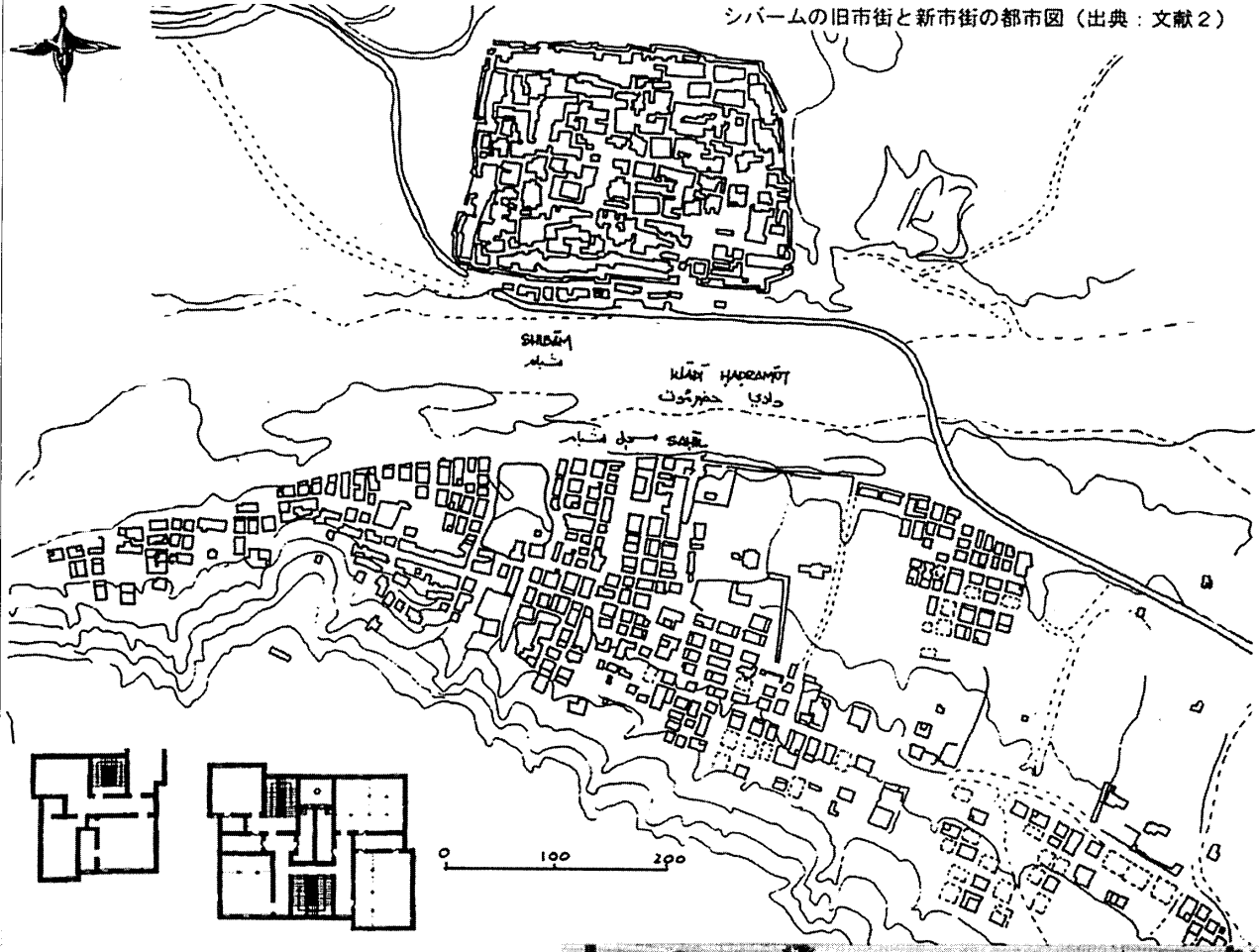


旧市街と新市街との間は、川となる領域である。(サユーンからサヌアへ飛ぶ機上から撮影)

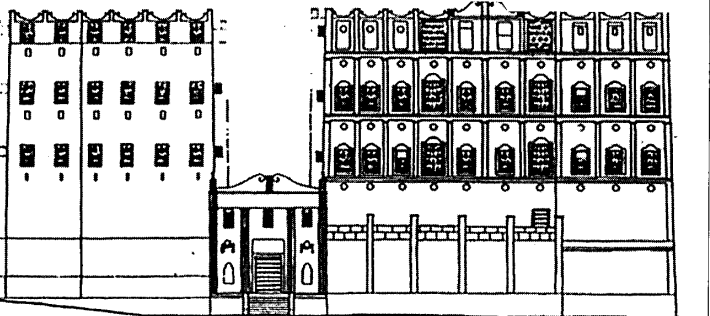
SHIBAM-3

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-3

シバームの旧市街と新市街の都市図 (出典: 文献2)



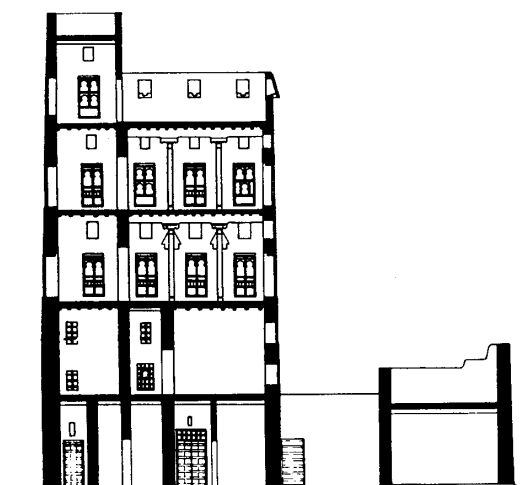
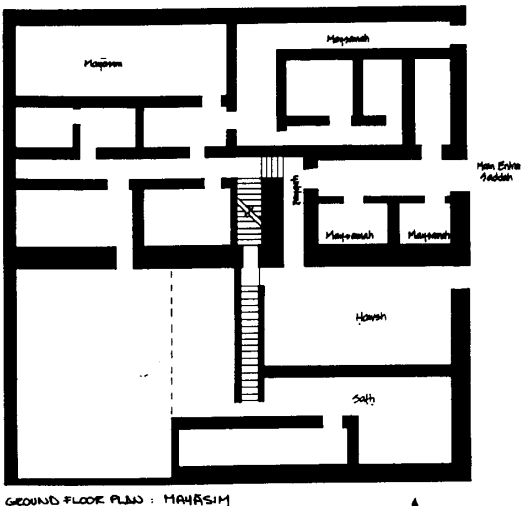
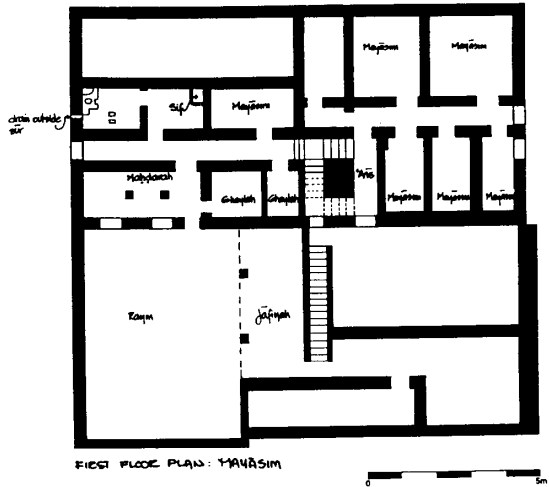
旧市街の南東端に位置する宮殿



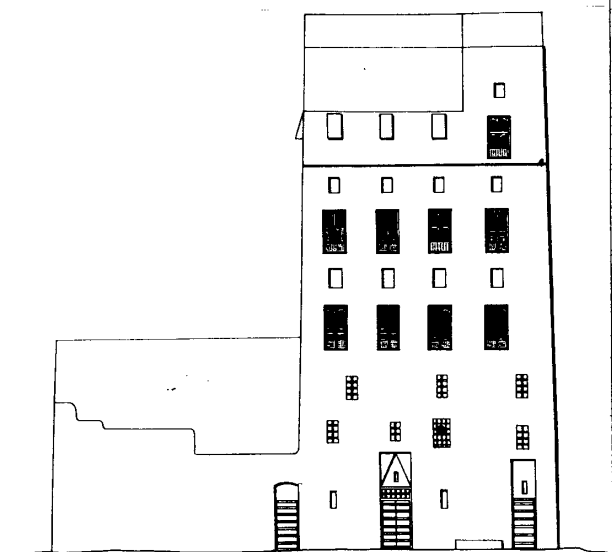
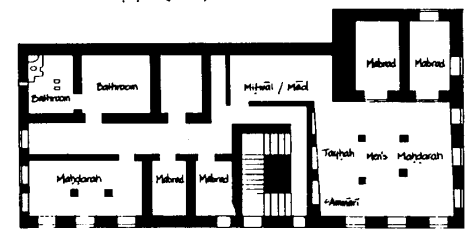
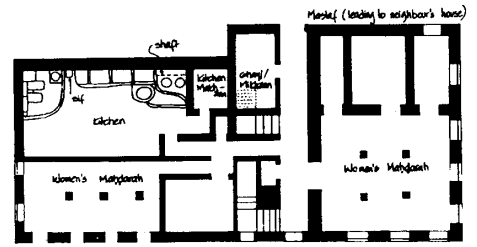
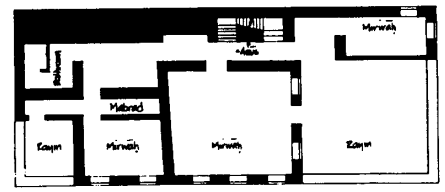
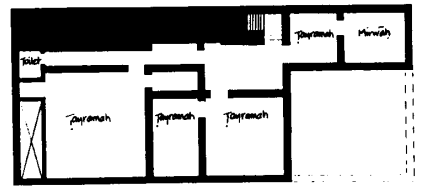
宮殿の平面図と正面図 (出典: 文献2)

SHIBAM-4

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-4

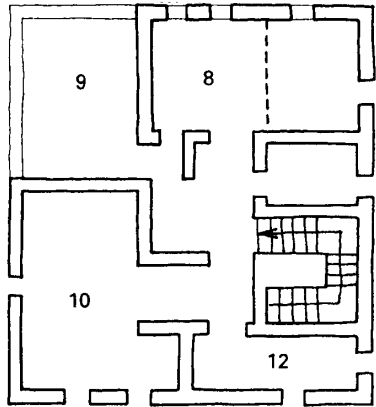


旧市街の北西端の住居平面図と立面図 (出典 : 文献2)

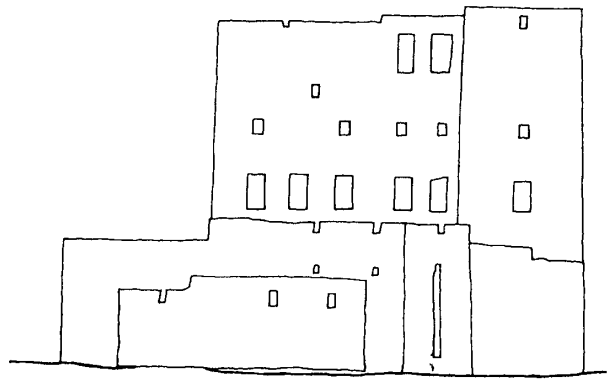


SHIBAM-5

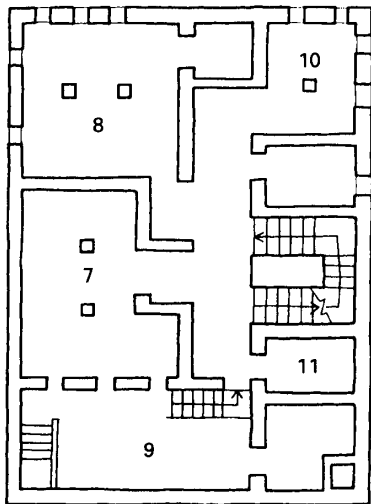
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-5



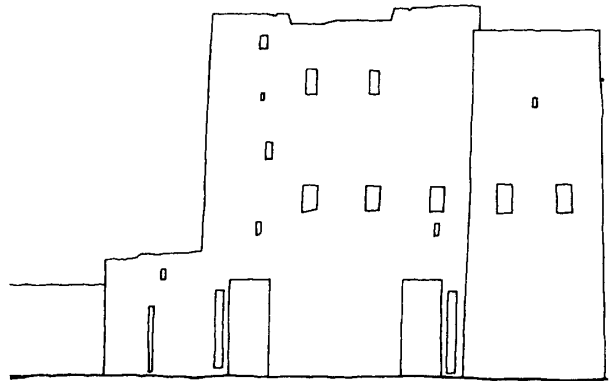
3階平面図



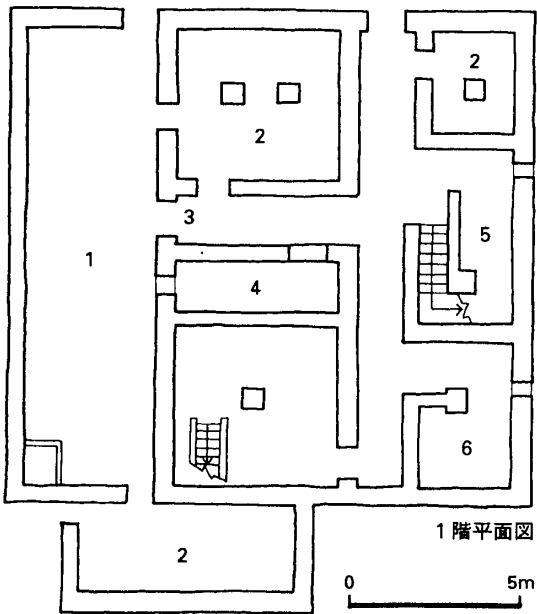
東側立面図



2階平面図



北側立面図



1階平面図

0 5m



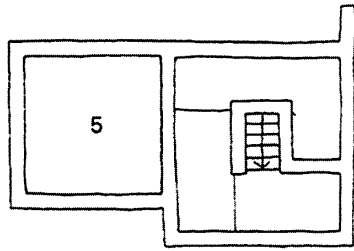
断面図

- | | |
|------------|------------|
| 1 : 前庭 | 7 : ゲストルーム |
| 2 : 家畜 | 8 : サロン |
| 3 : 入口 | 9 : テラス |
| 4 : ストアルーム | 10 : 個室 |
| 5 : 納屋 | 11 : トイレ |
| 6 : かまど | 12 : キッチン |

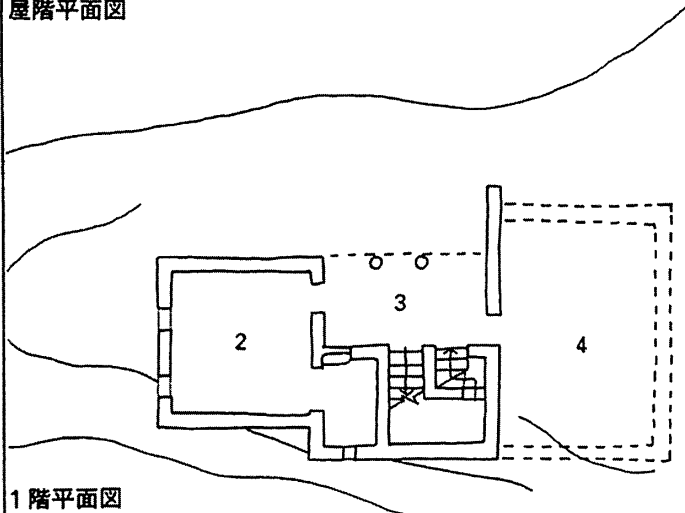
旧市街外のオアシス内の農家A平面図・立面図・断面図 (筆者調査)

SHIBAM-6

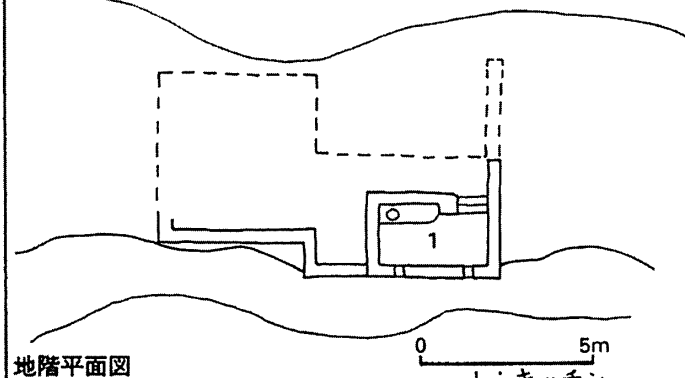
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-6



屋階平面図

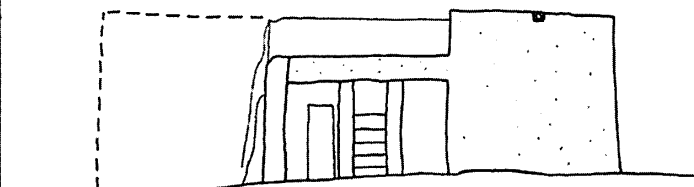


1階平面図



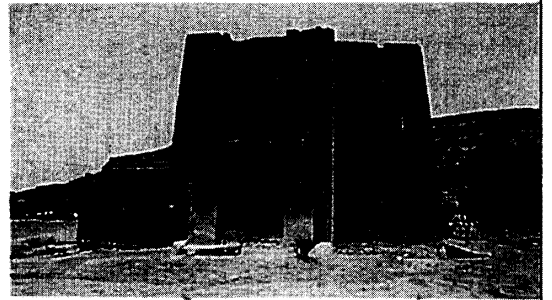
地階平面図

- 1 : キッチン
- 2 : 居屋
- 3 : テラス
- 4 : 以前存在した居屋
- 5 : 屋上テラス

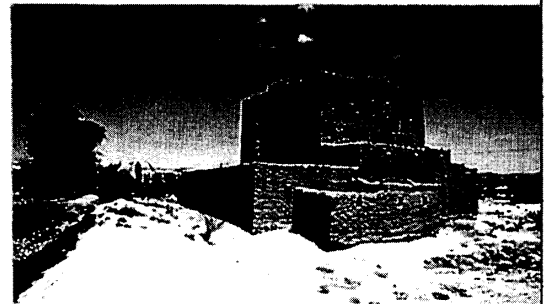


立面図

オアシス内の小農家Bの平面図・立面図 (筆者調査)



シバームの周辺の農家 (3階建て)



囲われた庭は家畜のためである。



オアシスの領域からシバームの塔状住居群を臨む



オアシスに立地する小農家 (現在は廃墟化している)



ハダラムートの谷に立地する水場と付属のモスク

SHIBAM-7

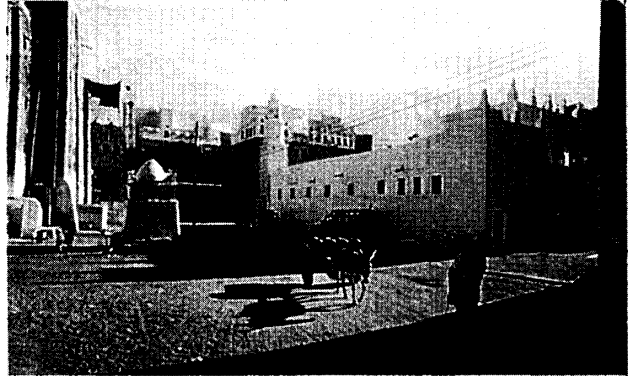


城壁の手前が川のゾーンである



旧市街の中央のグレートモスクを俯瞰する（出典：文献1）

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-7



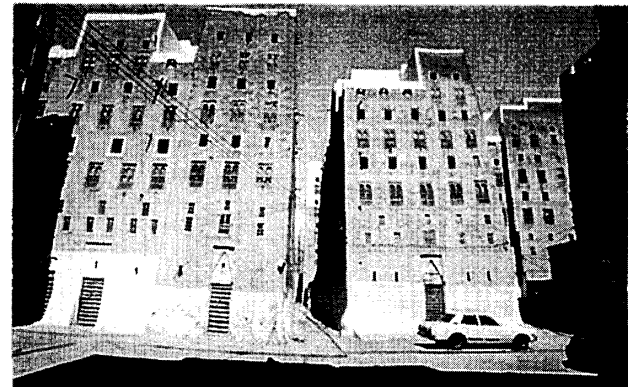
中心広場。右側の建物はグレートモスク



城門の内側、宮殿前の広場。スーク、学校等が配置されている



中心広場。中央の小さな建物は水場である



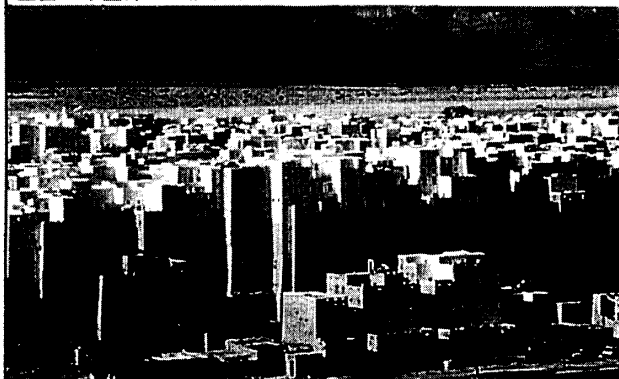
小広場を囲う住棟も6階から7階建てである

SHIBAM-8

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-8



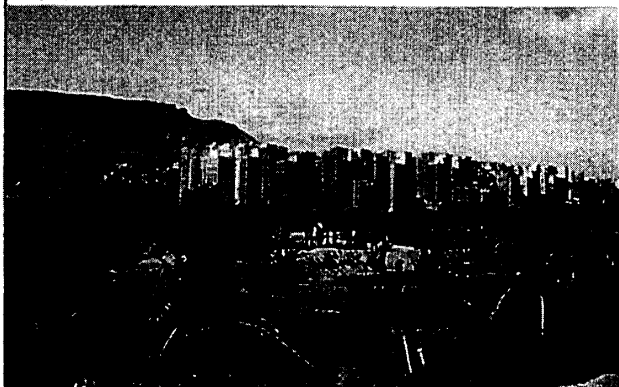
正面の城壁部分に接する塔状住居。上層を白く塗るのは暑さよけである



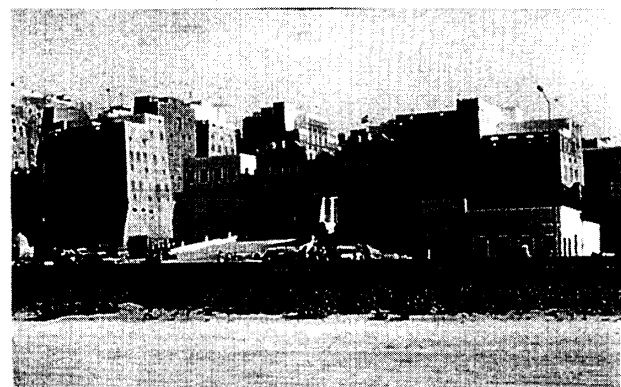
ハダラマートの谷広がりと旧市街の塊



日干しレンガの製造場所



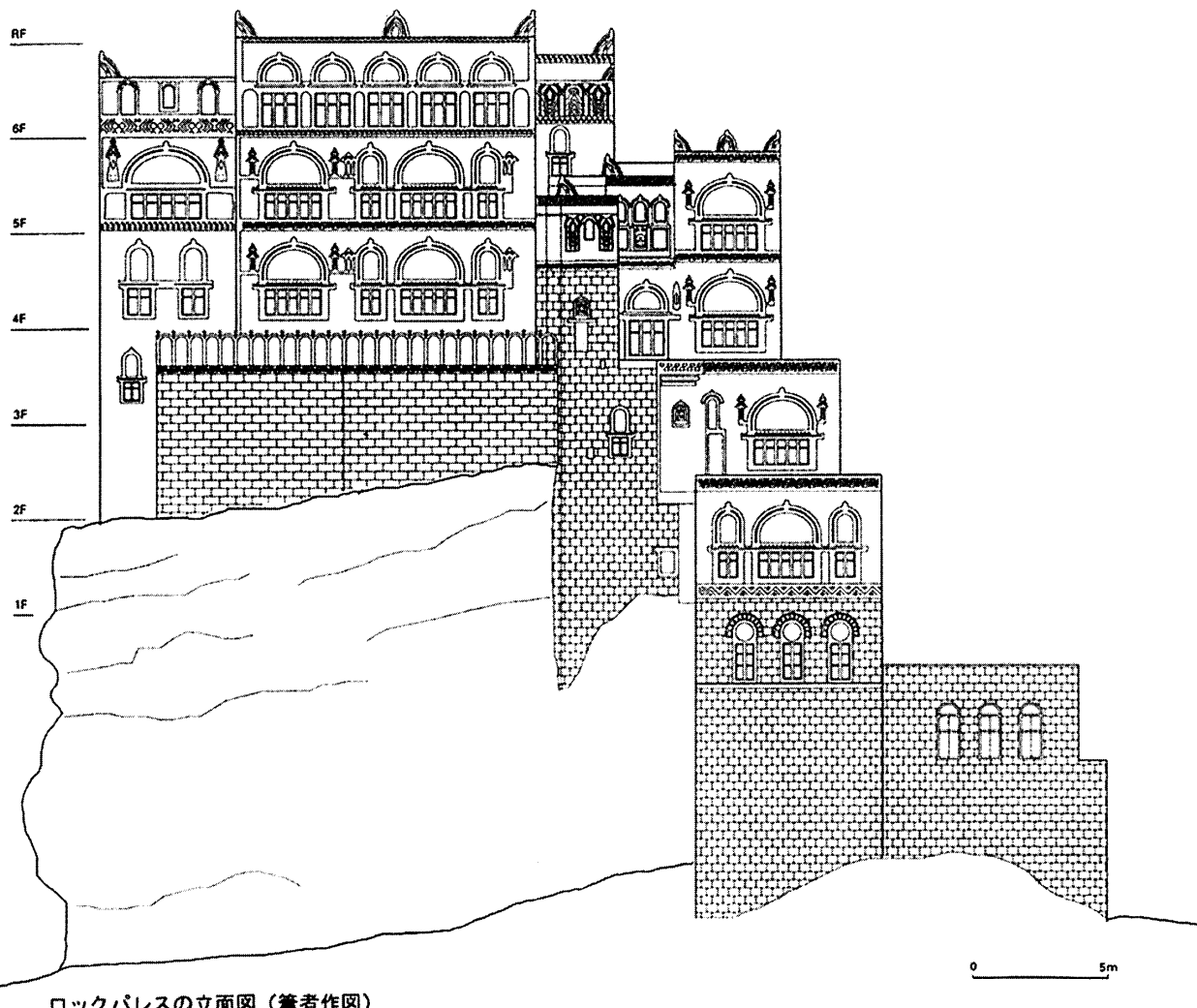
オアシス部分から旧市街とそれを囲む崖を望む



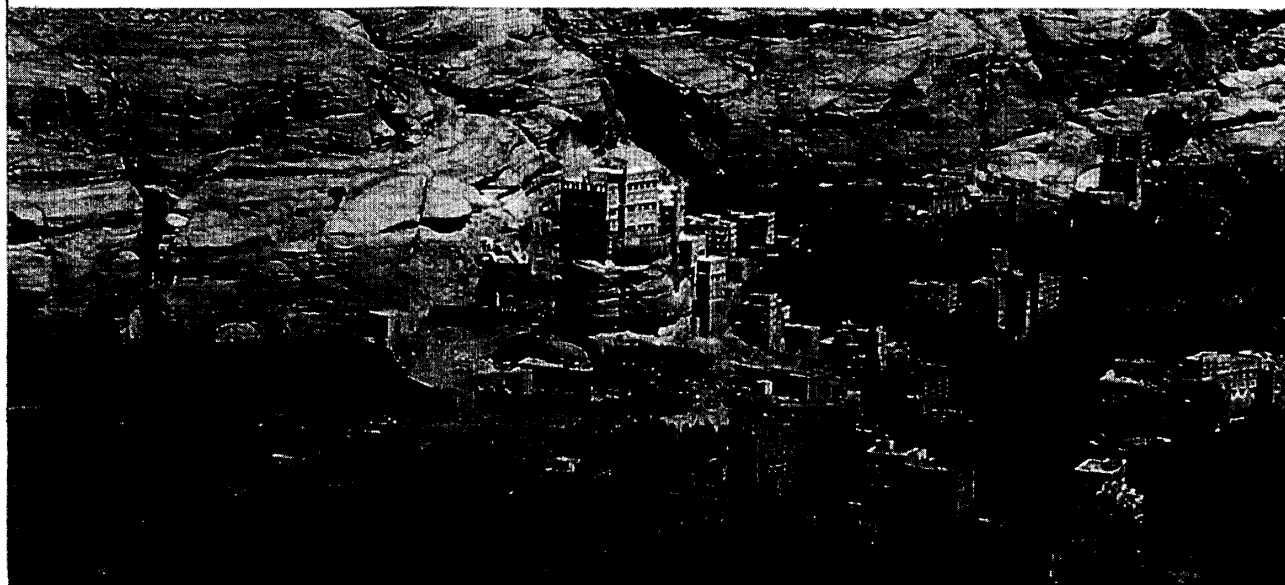
旧市街のただ一つの入り口の城門

DAR AL HAJAR-1

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-9



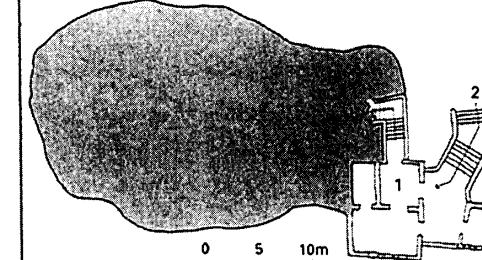
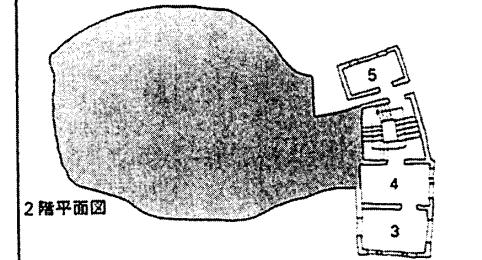
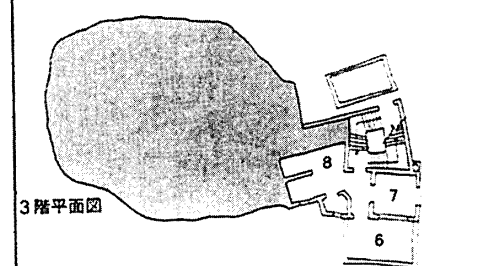
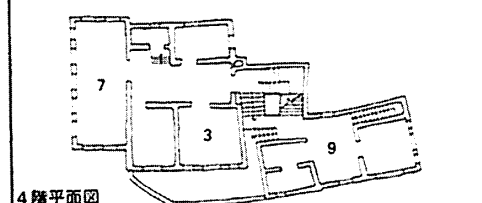
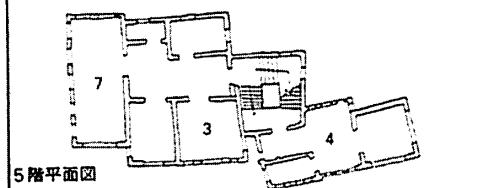
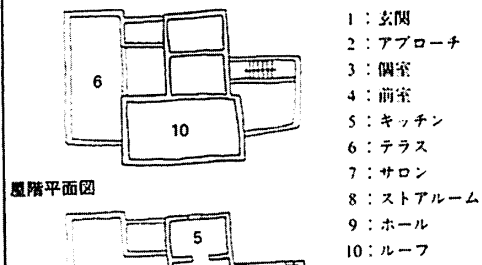
ロックパレスの立面図 (筆者作図)



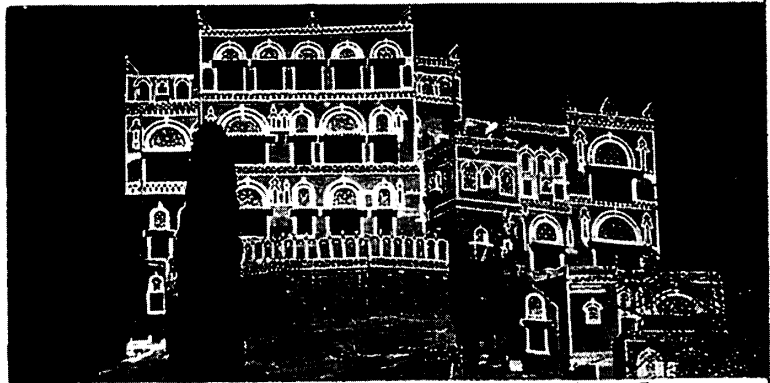
巨大な岩の上ののったロックパレス

DAR AL HAJAR-2

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-10



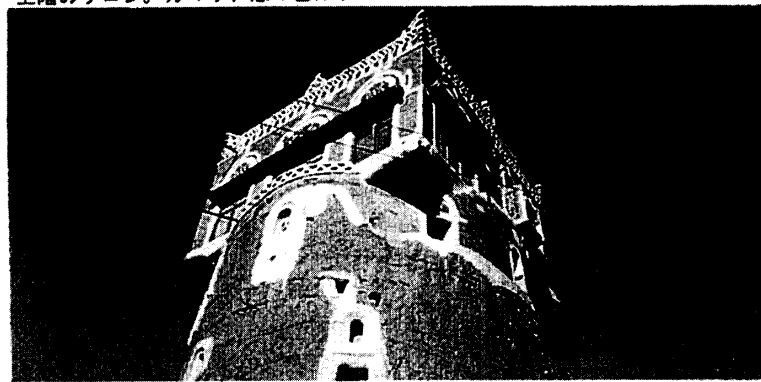
ロックパレスの平面 (筆者調査)



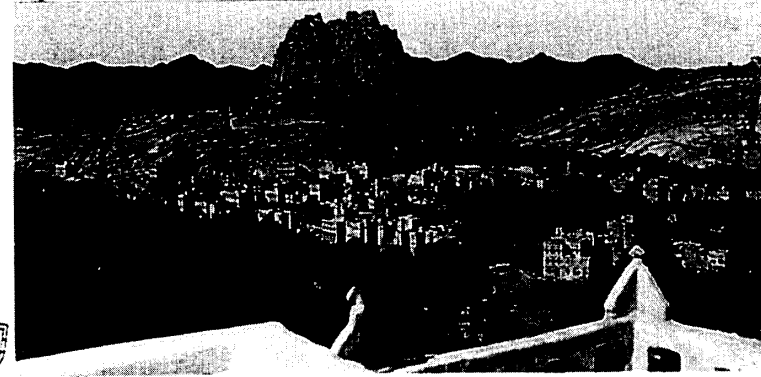
整然と並んだカマリア窓に思い思いの透かし枠がはめ込まれている



上階のサロン。カマリア窓の色ガラスからほのかな光が部屋に落ちる



監視塔の上に造られた住居



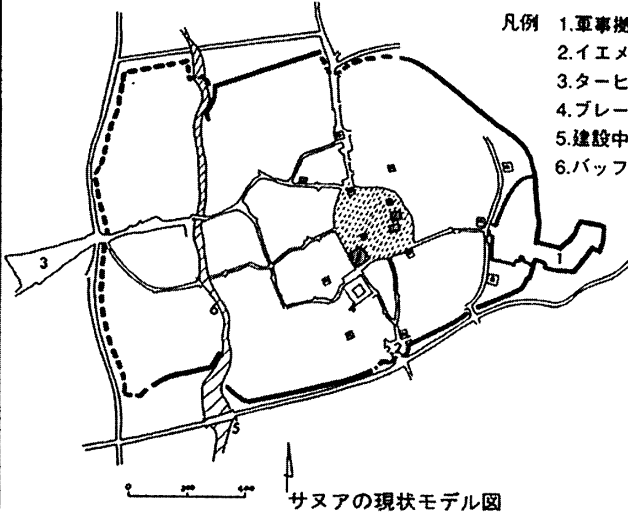
ロックパレスから周辺を見る

SANA'A-1

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-11

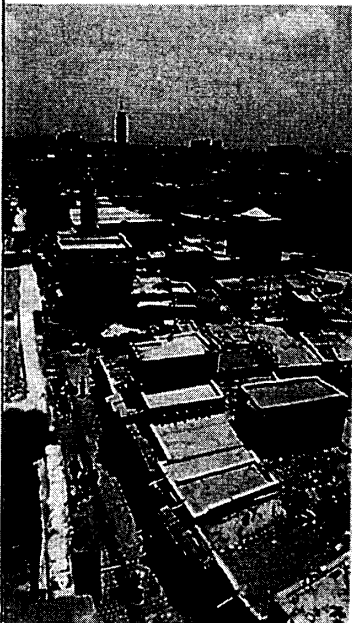


1962年当時のサヌア市街図 (出典: 文献6)



- 凡例
1. 軍事拠点
 2. イエメン門とスーク広場
 3. ターヒル広場
 4. プレートモスク
 5. 建設中の橋
 6. パッファゾーンとしてのワディ

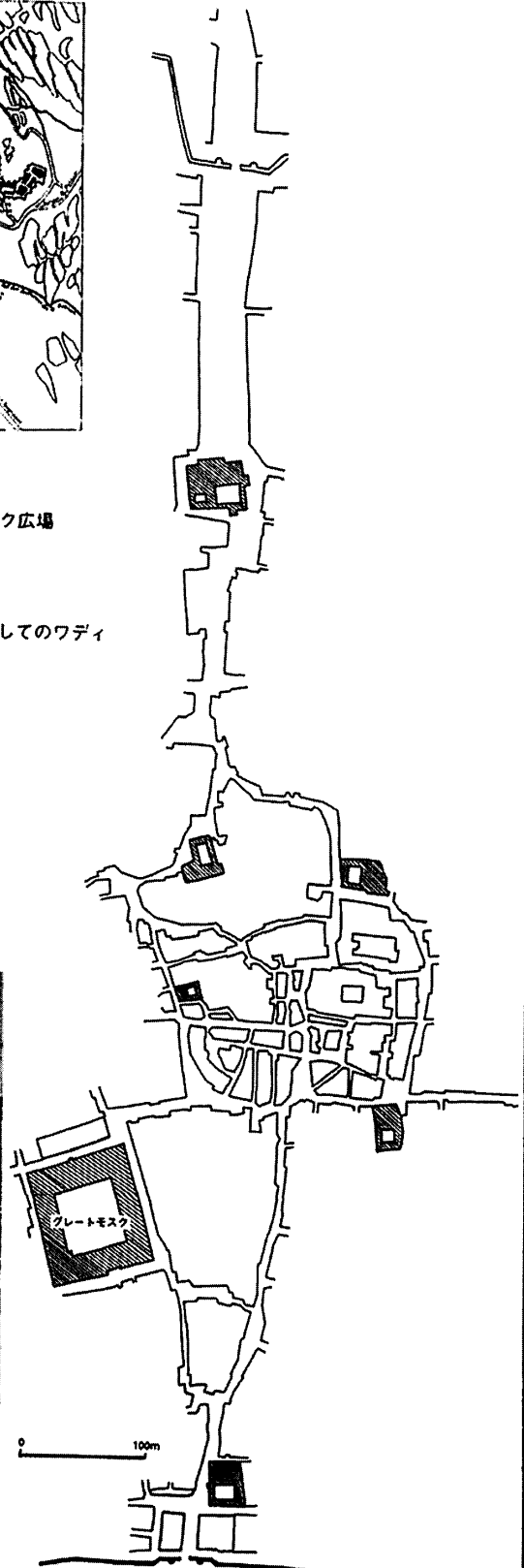
サヌアの現状モデル図



サヌア旧市街のスークゾーン



イエメン門周辺の市



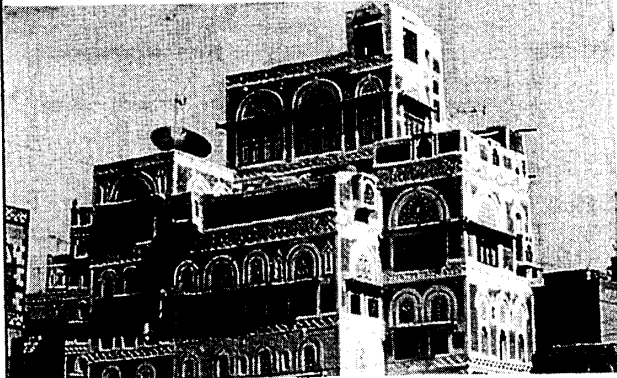
スークゾーンとモスクの配置 (資料と調査により筆者作成)

SANA'A-2

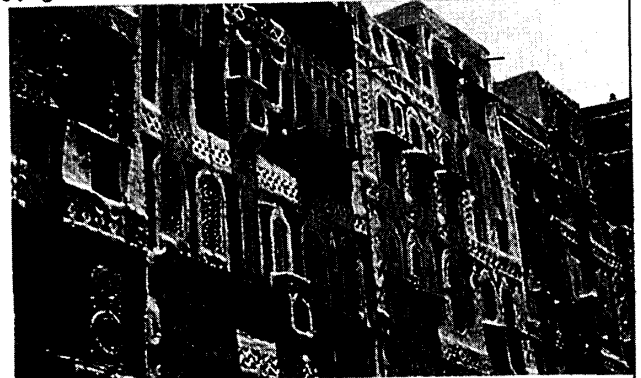
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-12



バーバルヤマン（イエメン門）の内側にはバザール広場が位置している



サヌアの標準的住居



高層住棟が連続している。思い思いに窓を作っている

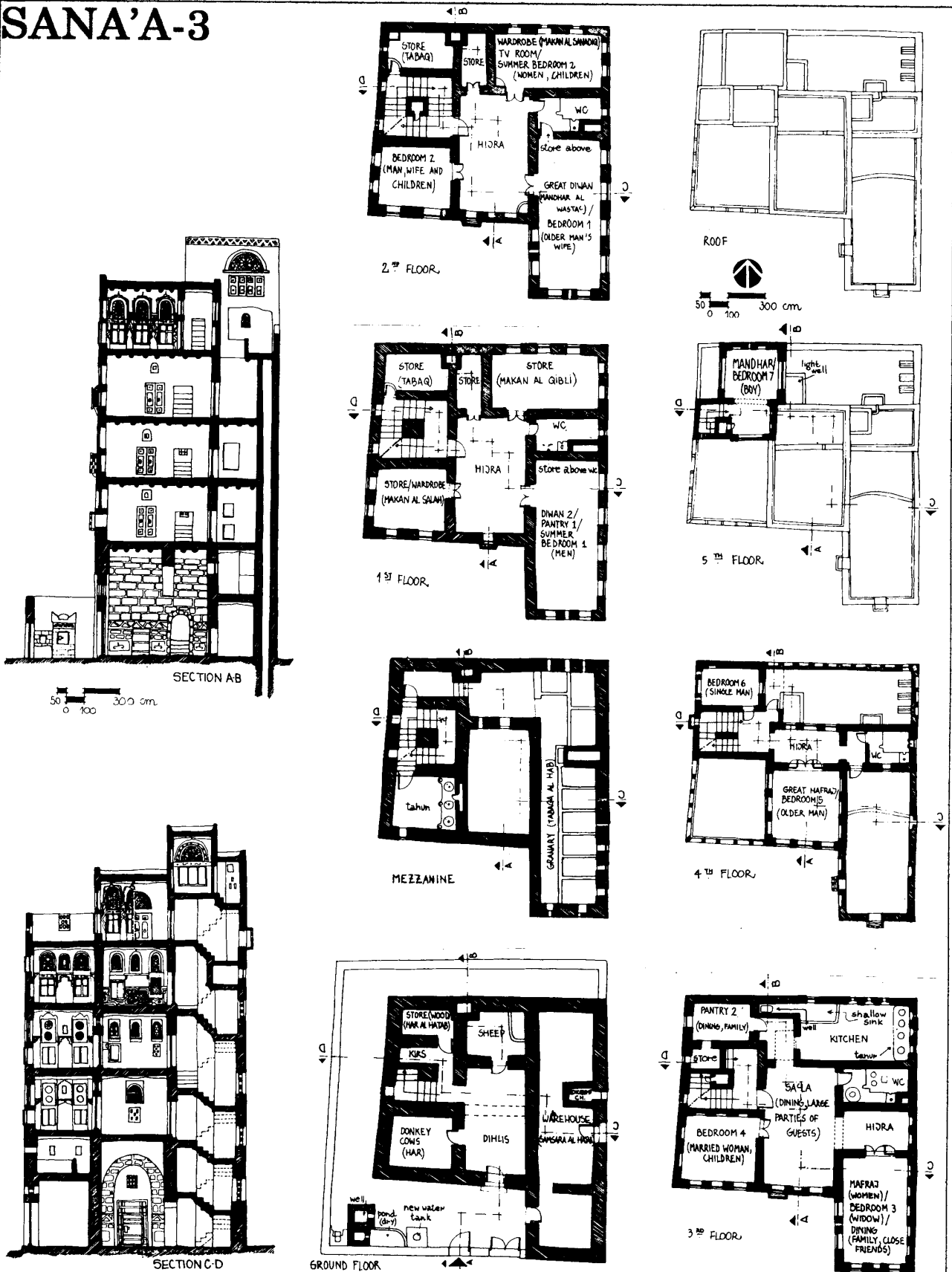


塔状住居群の間に菜園が作られている



旧市街をぬけるワディは、多目的なパッファゾーンである

SANA'A-3



サヌアの塔状住居の平面図・断面図 (出典: 文献6)

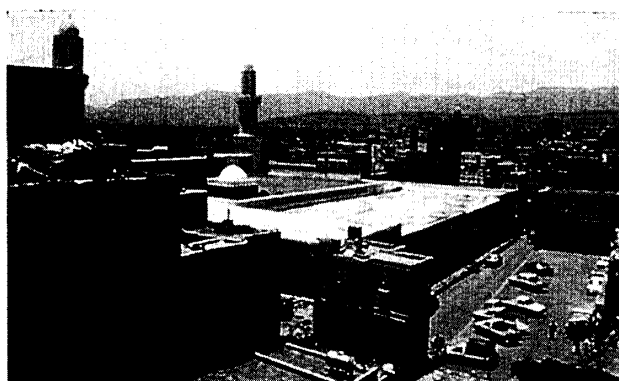
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-13

SANA'A-4

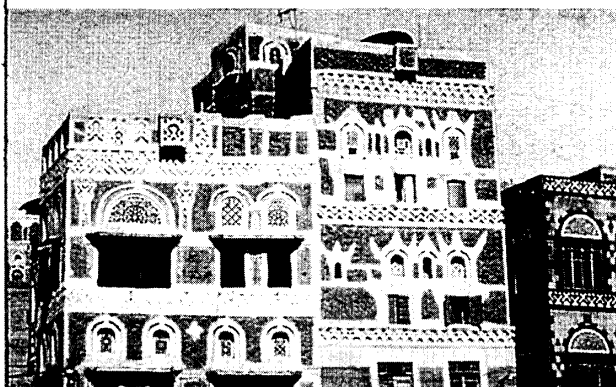
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-14



サヌアは64本のミナレットが立つといわれている



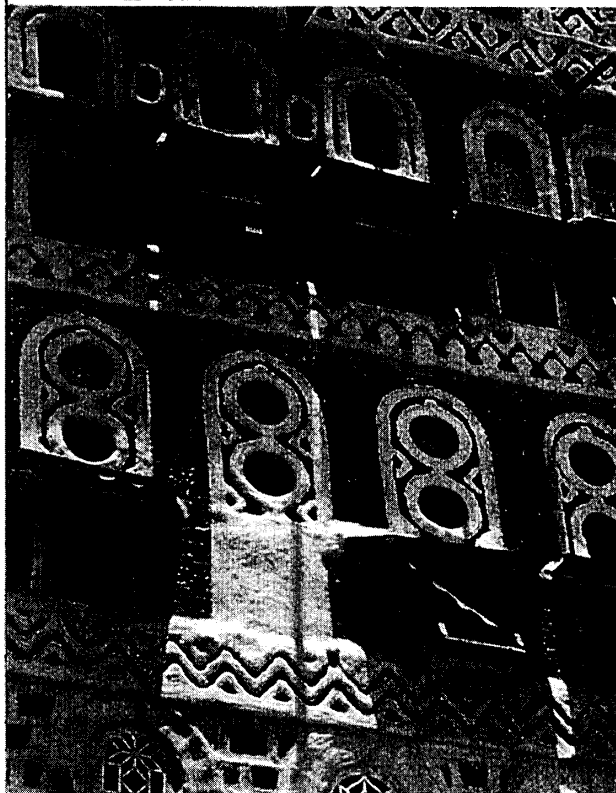
旧市街のグレートモスク



高層住居の壁面装飾A



イエメン門



高層住居の壁面装飾B

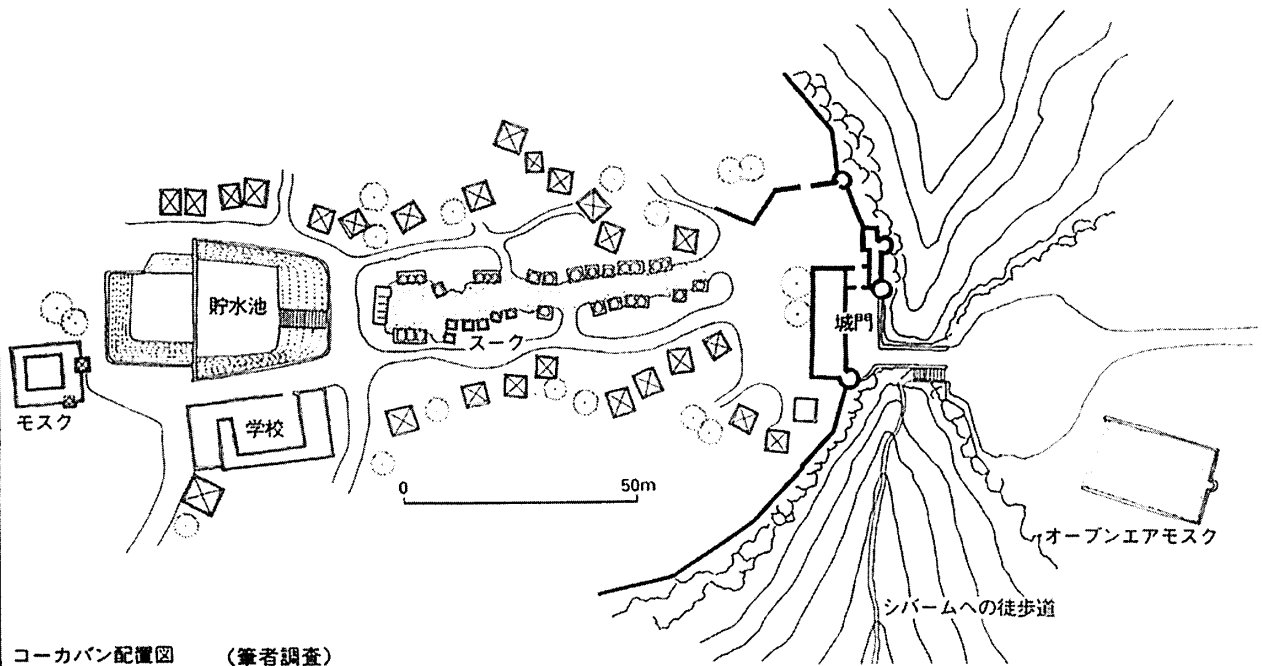


イエメン門から続くスークのメインストリート



イエメン門周辺の市

KAWKABAN · SHIBAM-1



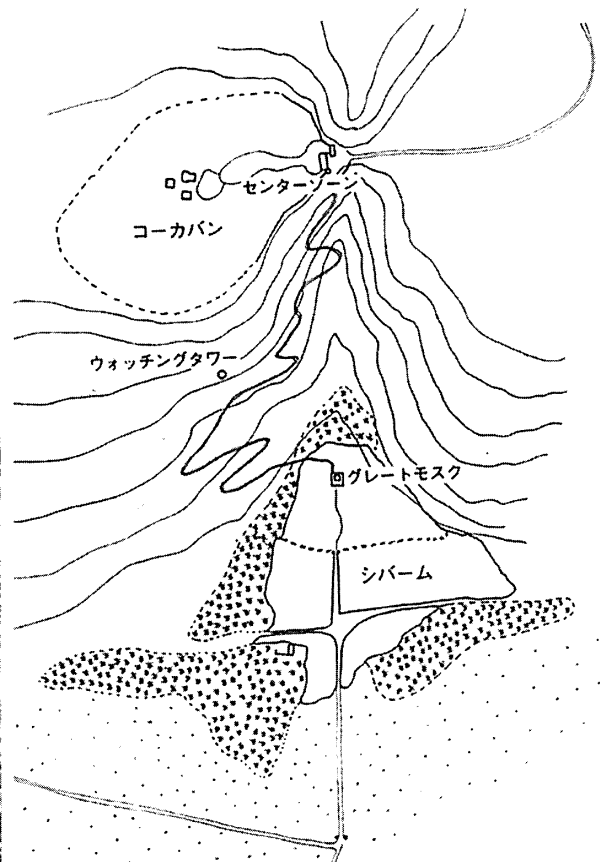
コーカバン配置図 (筆者調査)



コーカバンからシバームを見下ろした景観

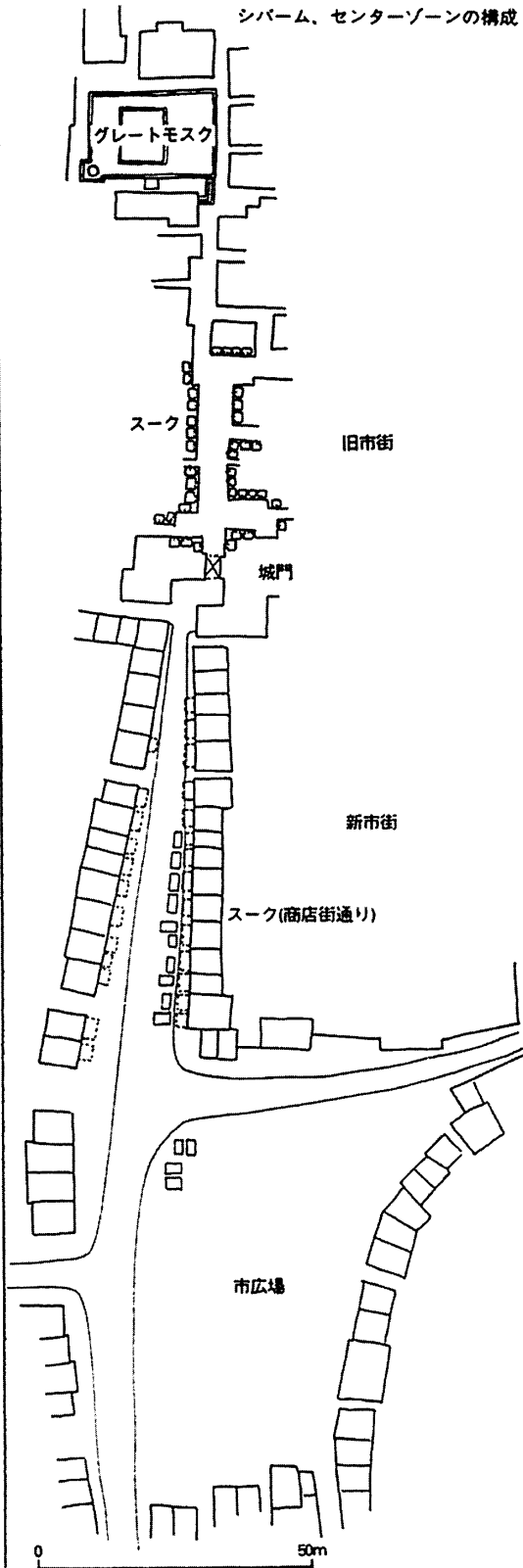


シバームの中心はグレートモスクとなっている



シバームとコーカバンの概念図 (筆者調査)

KAWKABAN · SHIBAM-2



城門前は広い台地となっている



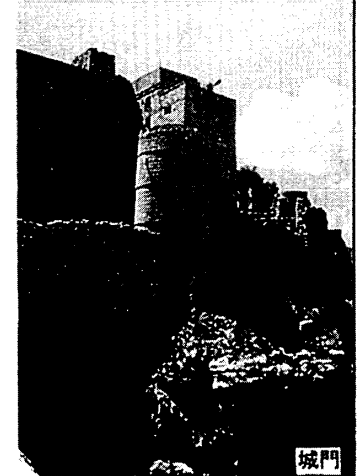
コーカバンの住居群



コーカバンの中心となるスークゾーン



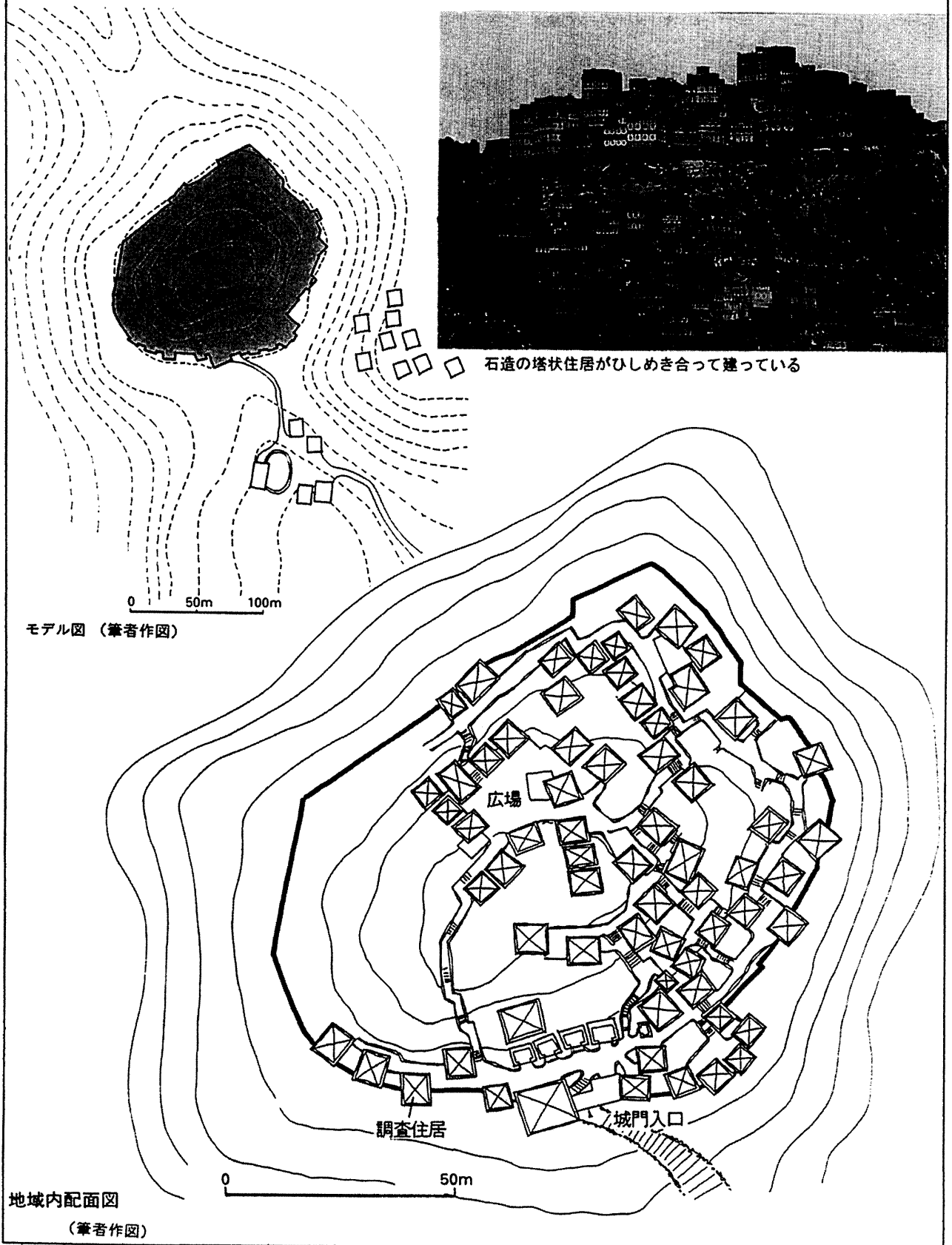
下と上を結ぶ歩道



城門

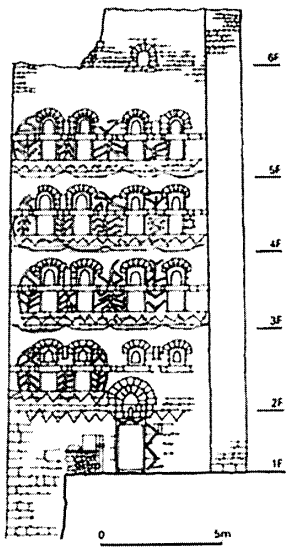
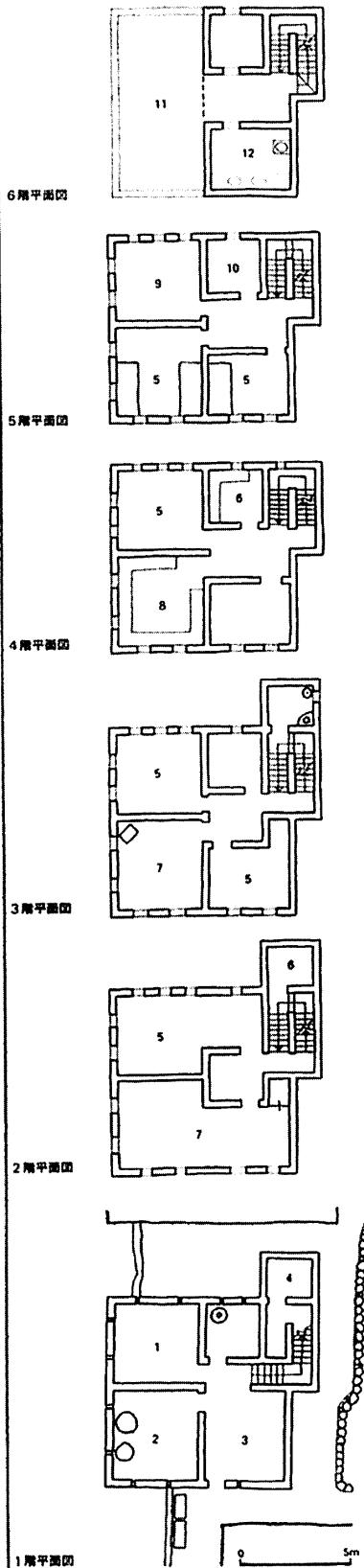
HAJJARAH-1

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-17



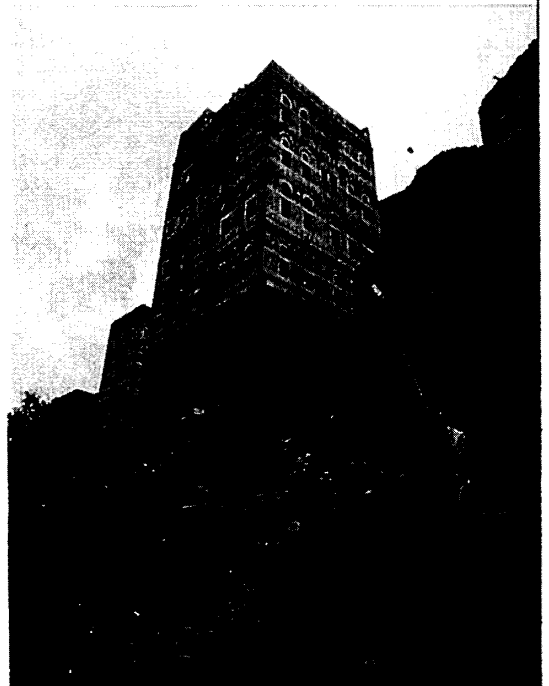
HAJJARAH-2

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-18

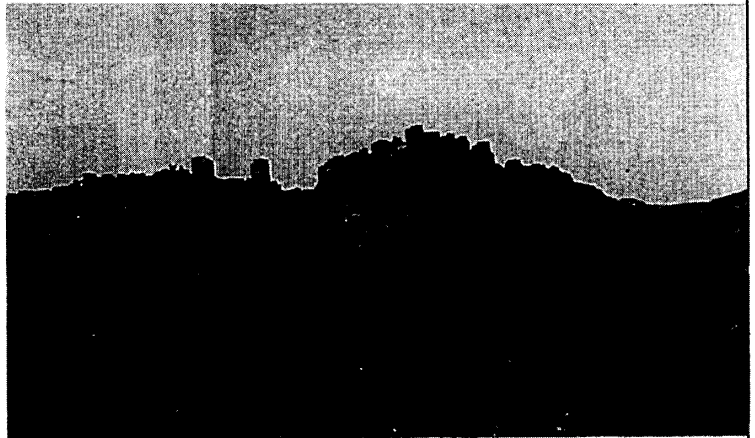


- 立面図
- 1: ストックルーム
 - 2: 物引
 - 3: 玄関
 - 4: オールドバス
 - 5: ベッドルーム
 - 6: バス
 - 7: 臥室
 - 8: カートルーム
 - 9: ダイニング
 - 10: トイレ・バス
 - 11: 屏風テラス
 - 12: キッチン

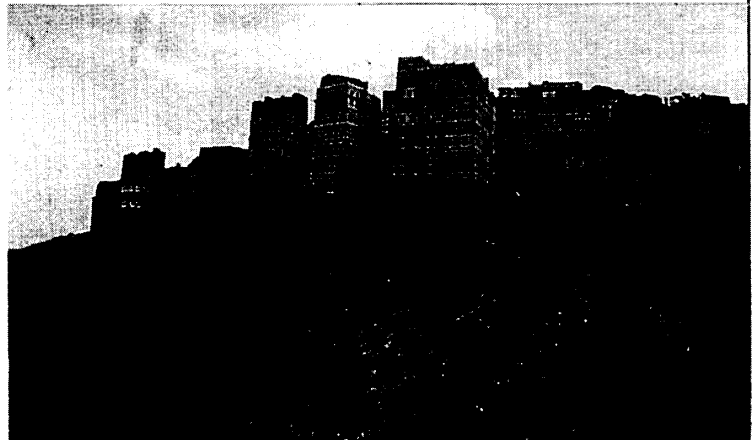
1階平面図
ハジャラの塔状住居の平面図（筆者作図）



ハジャラへの城門へ至る入り口



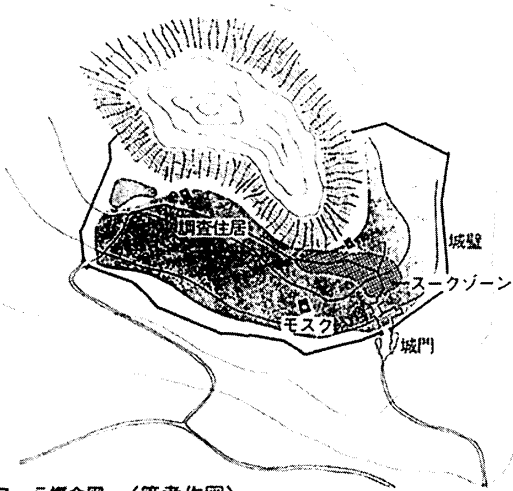
マナハから5Km岩山の上に築かれたハジャラの遠望。岩肌と区別がつかない



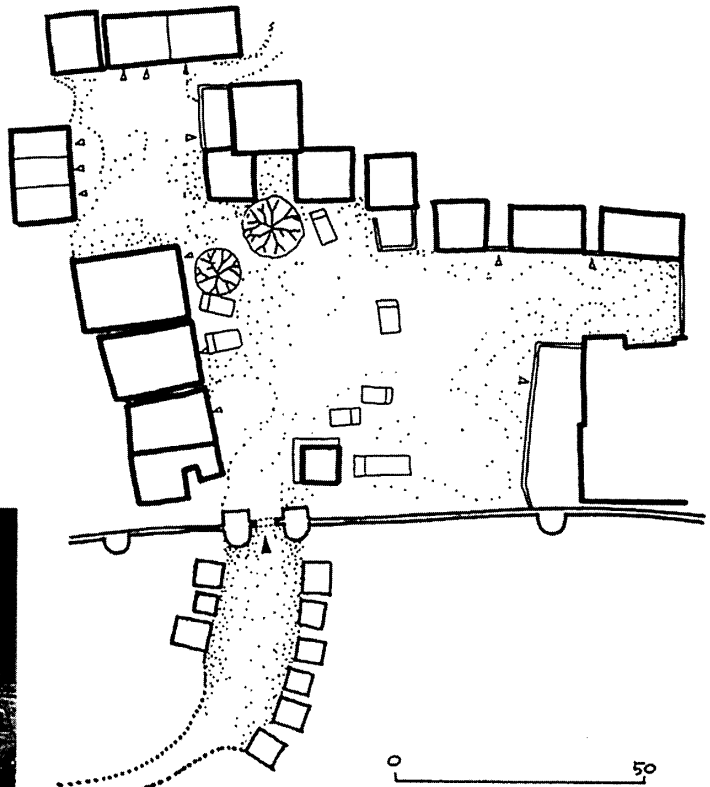
山岳都市ハジャラは自然地形を利用した城塞都市となっている

THULA-1

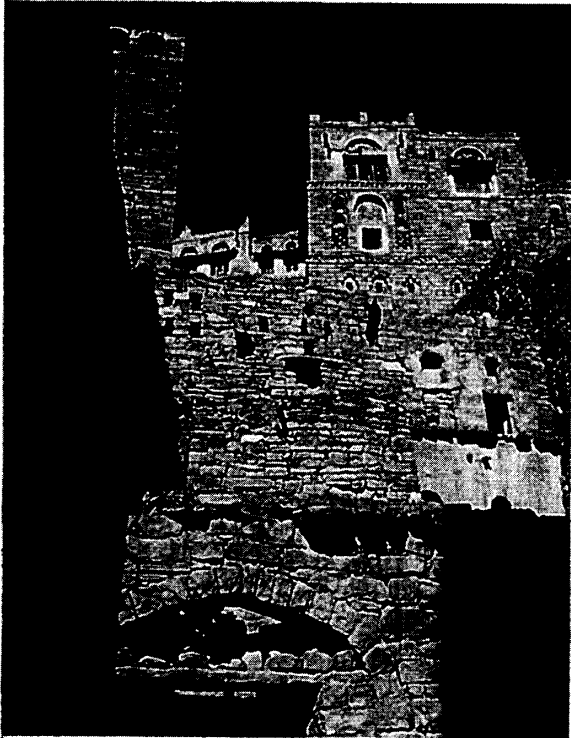
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-19



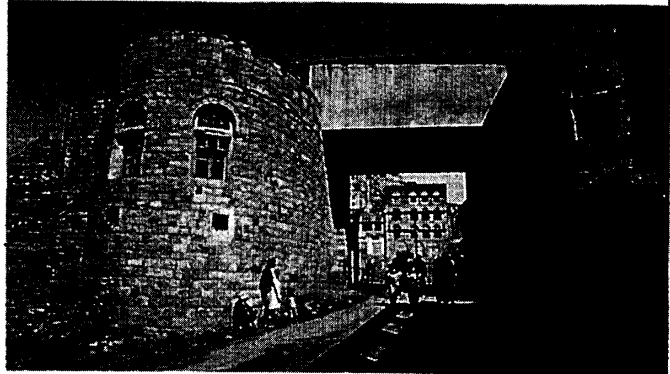
スーラ概念図 (筆者作図)



城門脇の広場 (筆者調査)



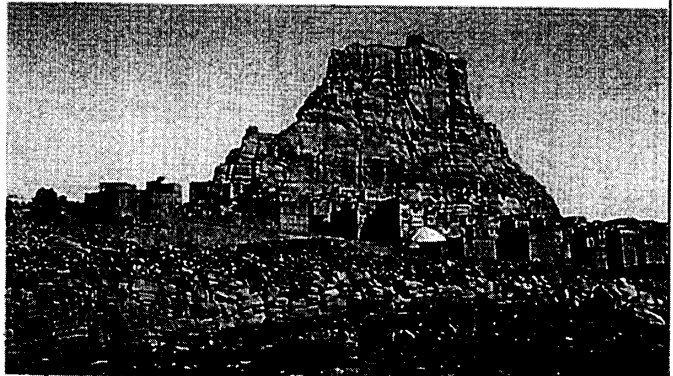
スーラの一般的な塔状住居。石造で組まれている



城門入り口。中に広場が広がる



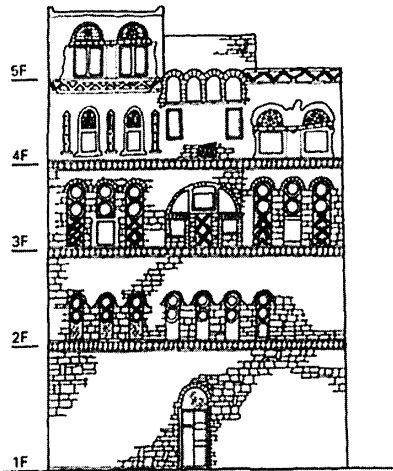
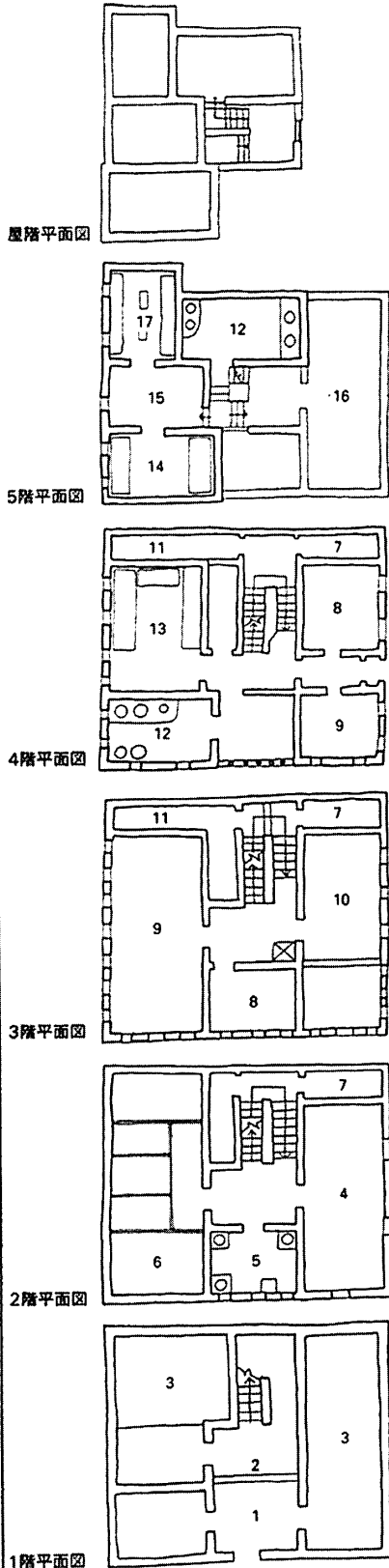
塔状住居と背後の岩山景観



スーラの全景。後ろの岩山の上にミリタリーが陣取っている

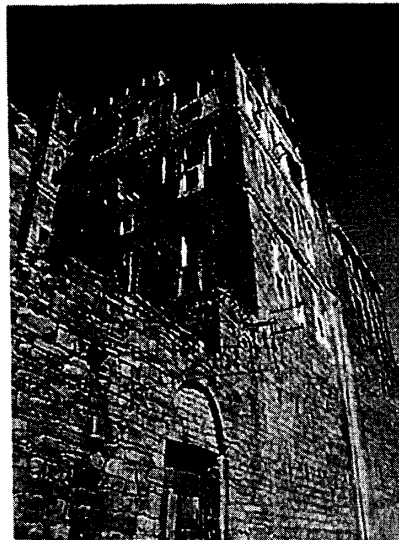
THULA-2

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-20

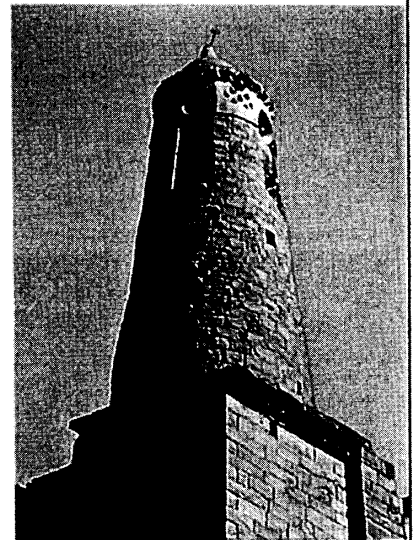


- 1 : 玄関
- 2 : アーチ
- 3 : 家畜
- 4 : 農器具庫
- 5 : 石臼
- 6 : 穀物倉庫
- 7 : トイレ
- 8 : 男性の居屋
- 9 : 女性の居屋
- 10 : 居間
- 11 : ストアールーム
- 12 : キッチン
- 13 : ダイニングルーム
- 14 : サロン
- 15 : 前室
- 16 : テラス
- 17 : カートルーム

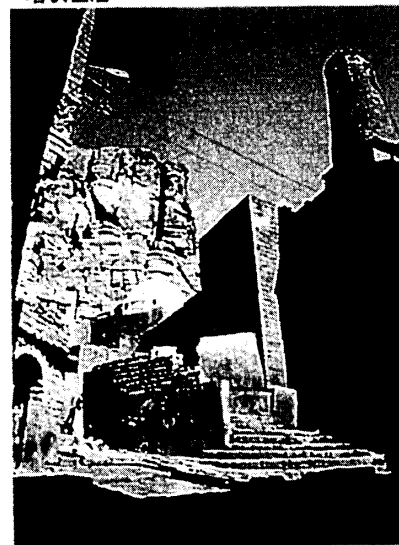
立面図



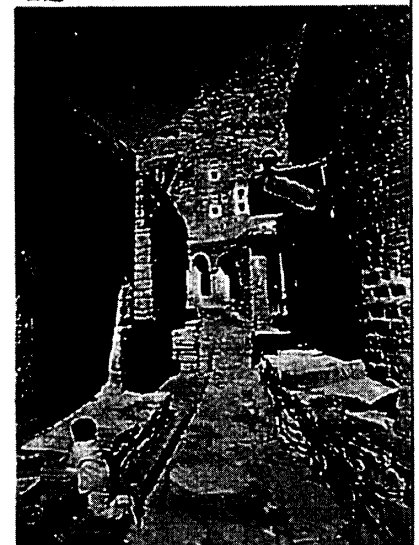
塔状住居



石造のミナレット



市街景観と岩山

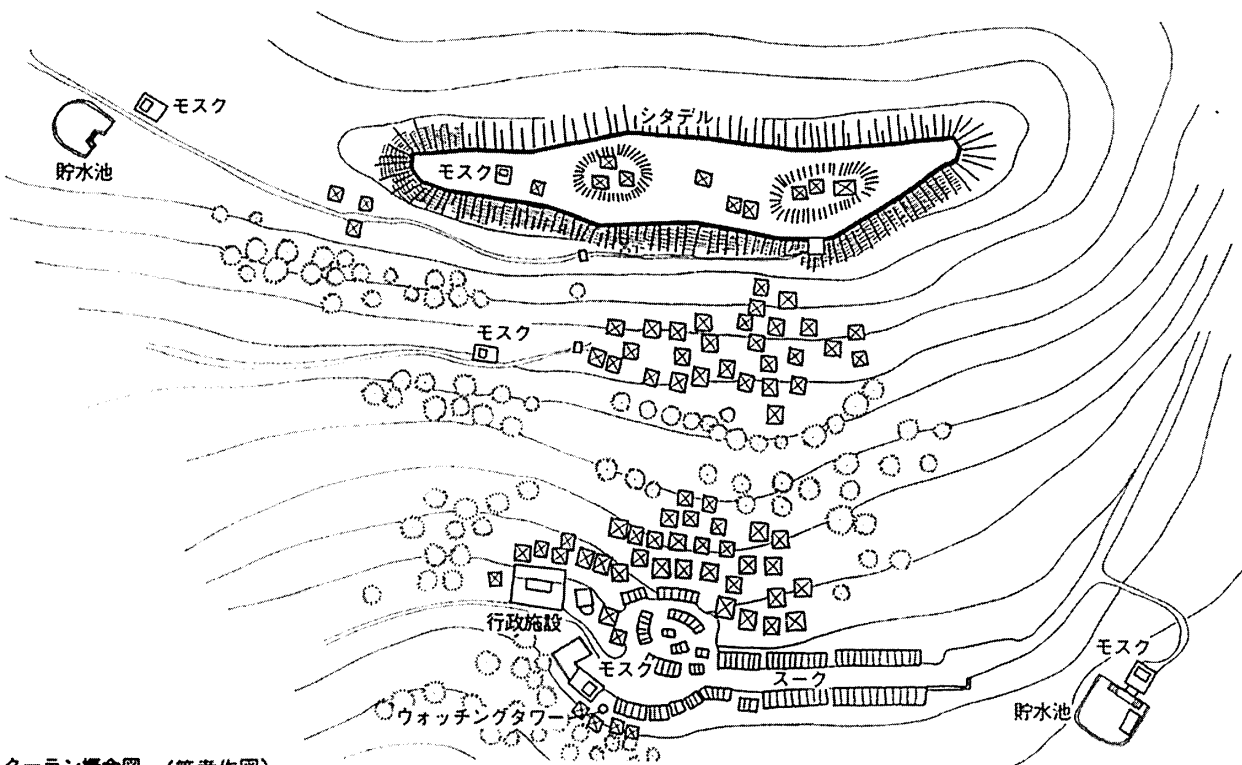


中心のスークゾーン

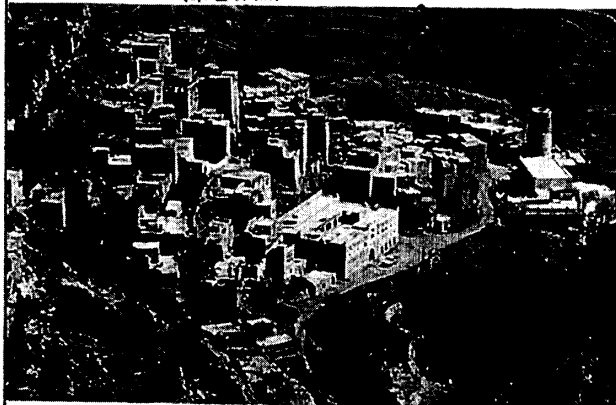
スーラ塔状住居の平面図・立面図（筆者調査）

KUHLAN-1

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-21



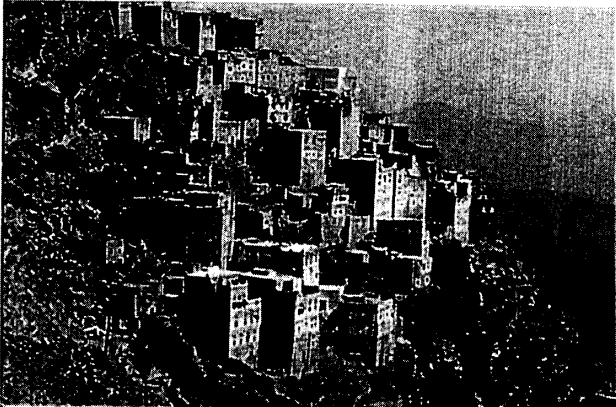
クーラン概念図 (筆者作図)



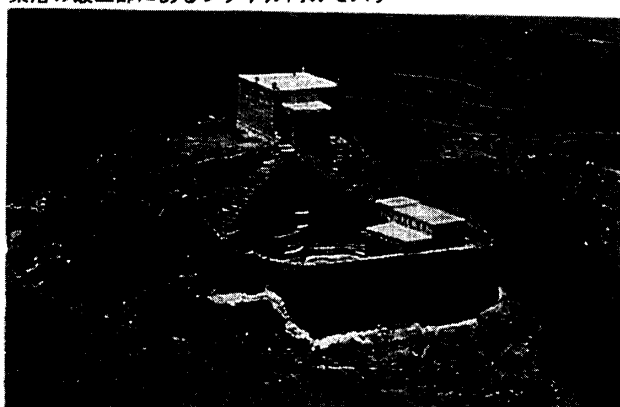
クーランの中心部。円筒形の監視塔とモスク



集落の最上部にあるシタデル内のモスク



斜面にへばりつく塔状住居



下のモスク。貯水池が併設されている

KUHLAN-2

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-22



山上のシタデルから下の中心モスクとスクと行政施設に至る景観



岩肌へへばりつく住居



中心スクゾーン



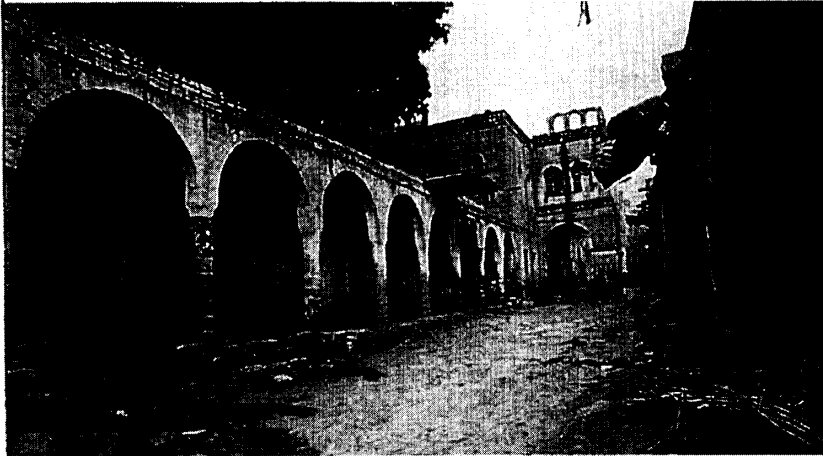
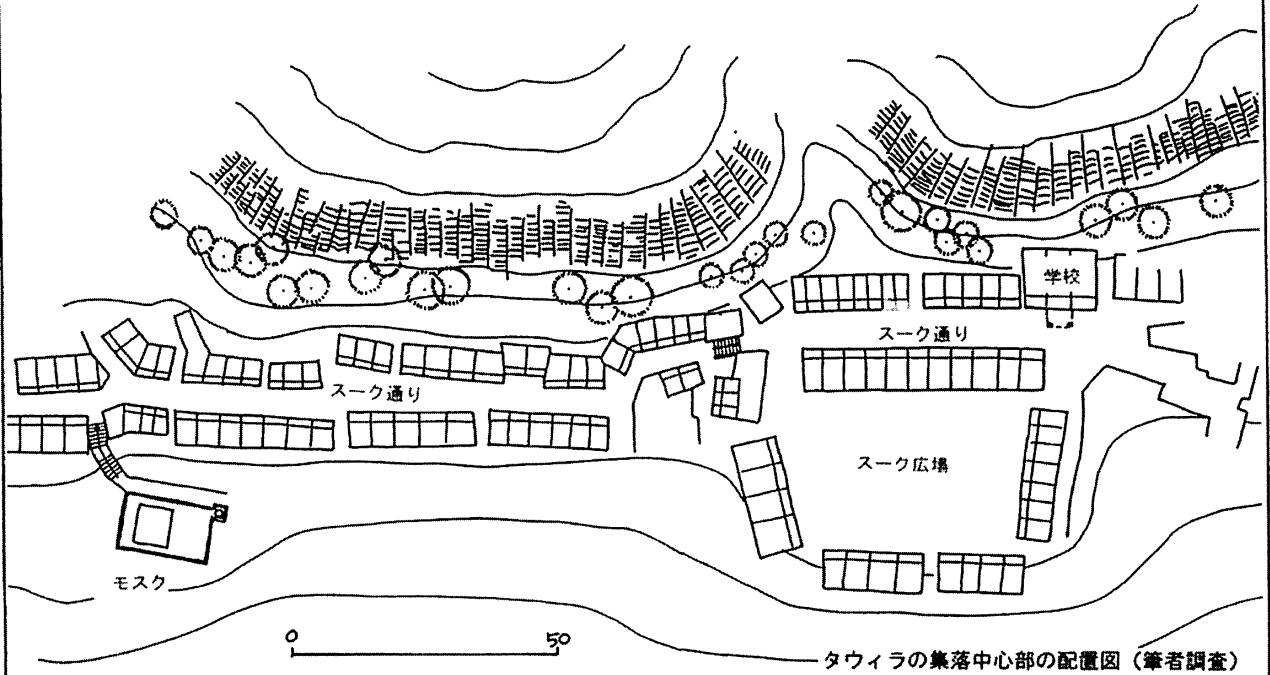
周辺集落の景観A



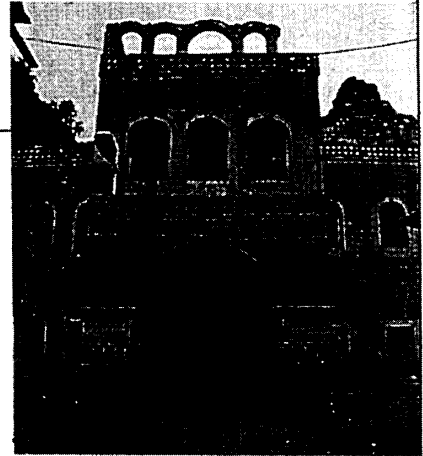
周辺集落の景観B

TAWILAH-1

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-23



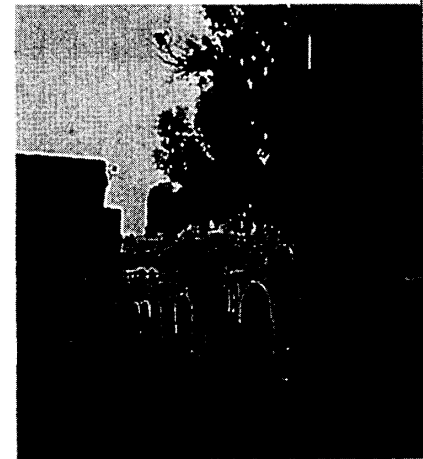
メインストリートのスークゾーン



スークゾーンの中にある学校



スーク風景A

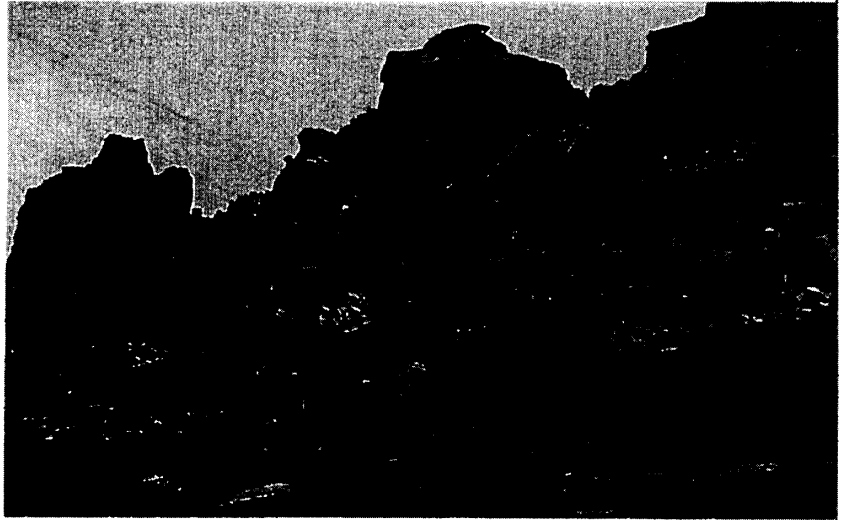


TAWILAH-2

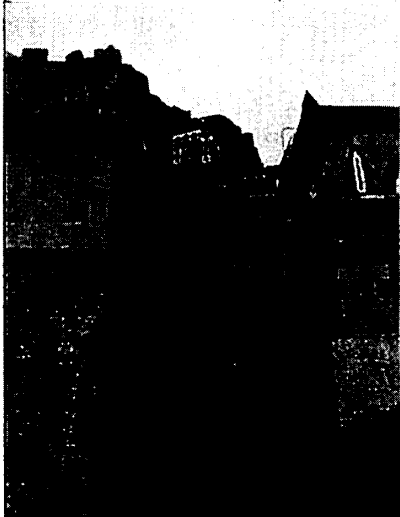
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-24



岩山を登る集落



岩山に貼り付く集落の景観



集落内は階段が多い



塔状住居は石造である



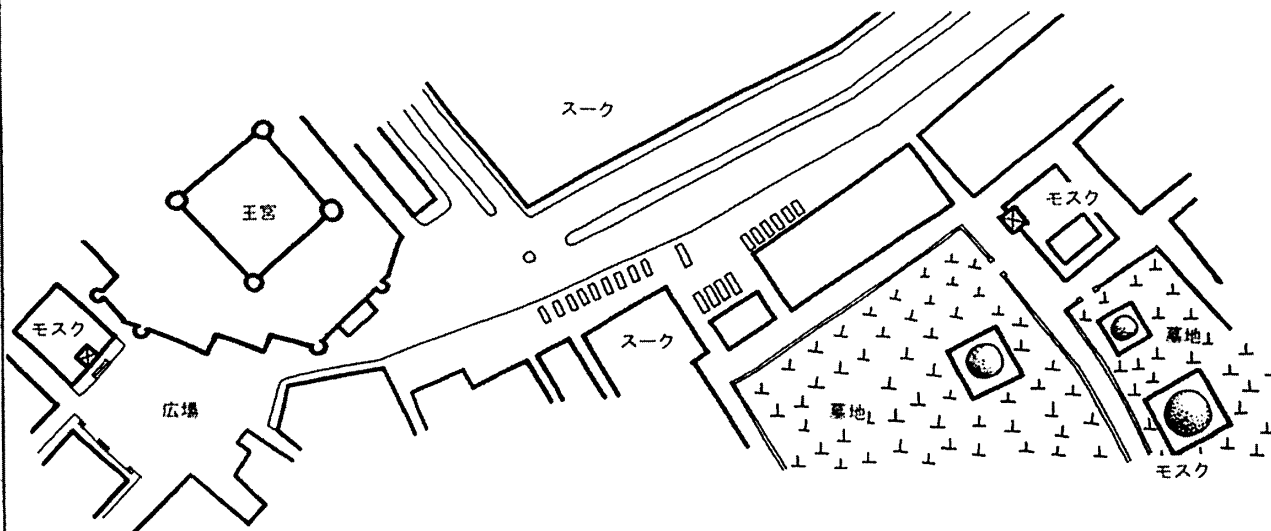
やせた尾根にも塔状住居の集落はへばりついている



アル・マーウィット周辺の景観

SAIYUN-1

YEMEN - VILLAGES AND CITIES-25



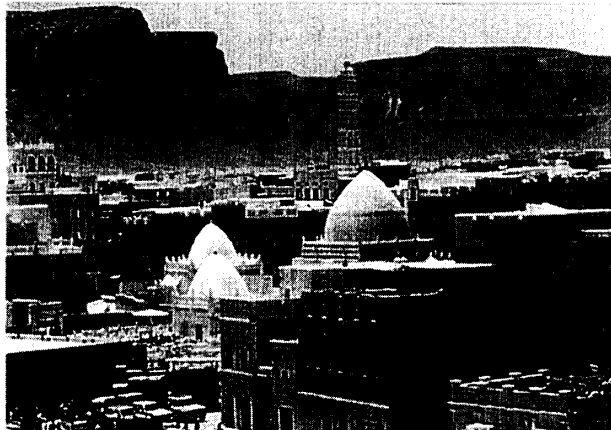
サユーンを中心部の都市平面図 (筆者作成)



ハダラマートの中心都市サユーン。朝日に輝く建物は、スルタンの宮殿である



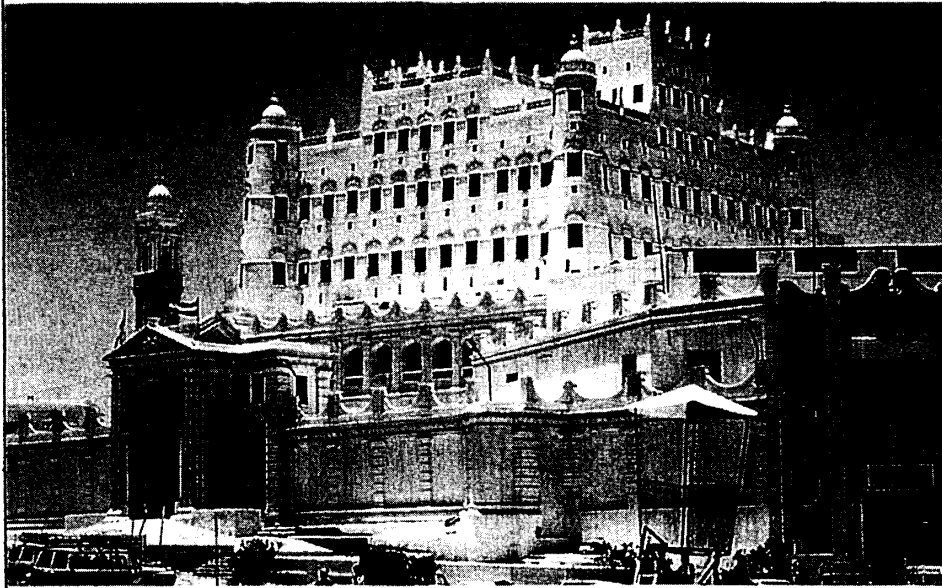
サユーン中心広場



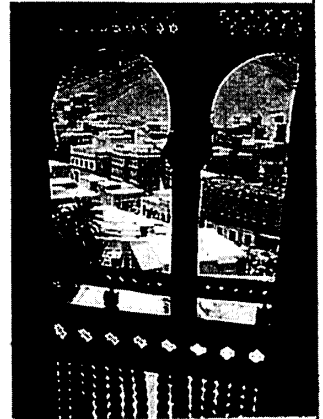
中心広場に隣接する墓地とモスク

SAIYUN-2

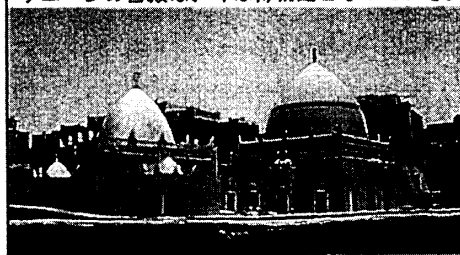
YEMEN - VILLAGES AND CITIES-26



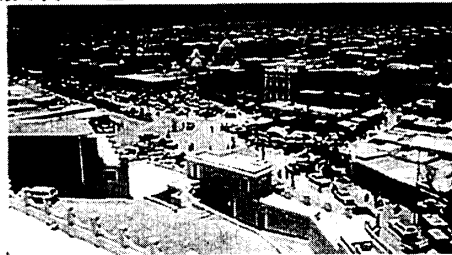
サユーンの宮殿は、今は博物館となっている。太陽は真上に登っている



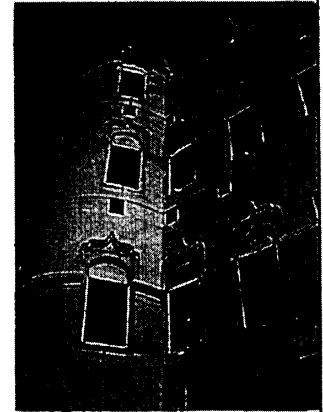
宮殿内より広場を望む



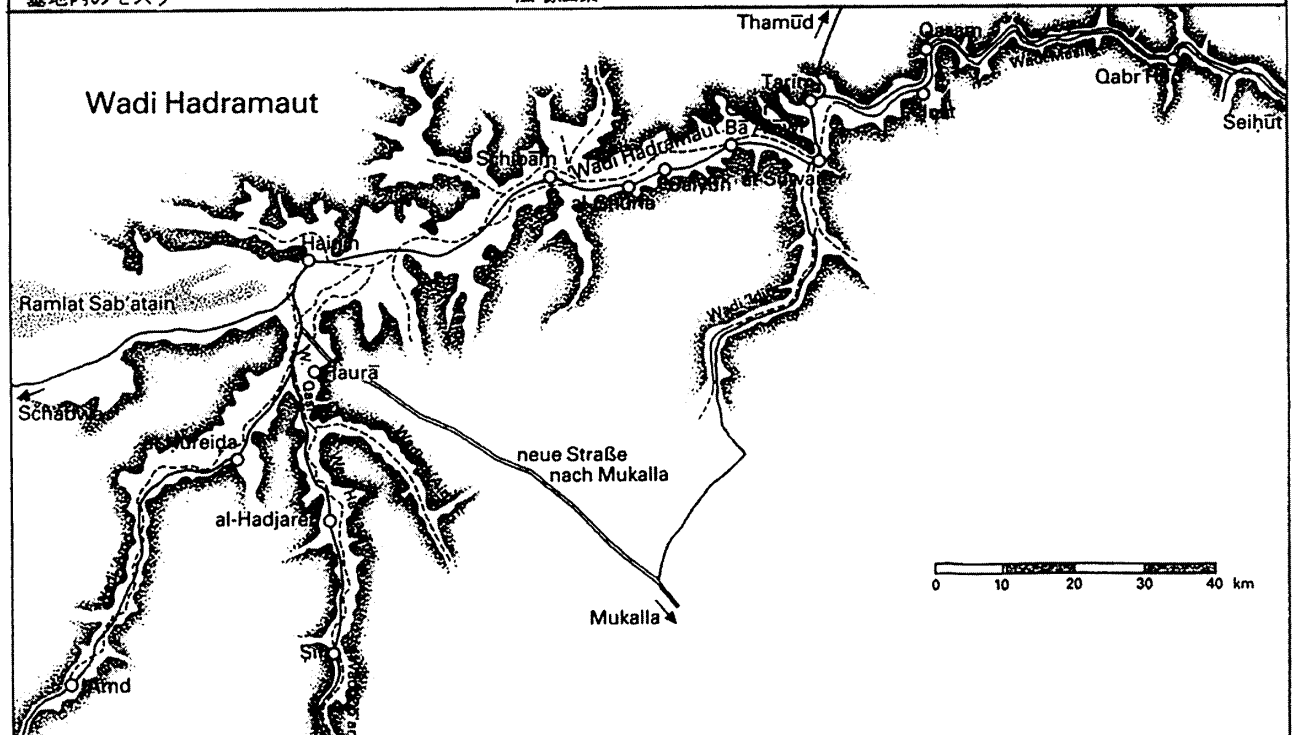
基地内のモスク



広場風景



宮殿のディテール



ハダラマートの配置図 (出典: 文献9)

施設が取り囲む城門脇広場に出る。この広場から、スーク通りを抜けると中央のグレートモスクの広場に出る。グレートモスクとは、金曜モスクとも言い都市の人々の安息日（金曜日）にこのモスクに集まって祈りをささげる場である。この広場は、全体の市の広場ともなっている。

＜シバームの住居＞

旧市街の住居は6階から8階に及ぶ塔状住居である。1階は家畜のスペースとなっている。2から3階に応接間が、その上に居間があり、さらに上に行くと男が入れないキッチンの領域や女性のための部屋がある。最上階は、展望できるサロンとなっているものが多い。

(SHIBAM-4参照)

城壁都市シバームの周辺はオアシスとなっており、農家が散在している。(SHIBAM-5,6参照) 新しい家も、古い家も土の住宅である。昔から地域の建設組織があつて地域共同体のようにして住居の建設を行っているという。砂漠の気候では、コンクリート造やブロック造は熱を吸収してしまうから適さないという。断熱性能の良い土の家が最適とされるため、新しい建築でも日干しのレンガでたくさん作られている。床は木製の梁を渡して細い木を敷きならべその上に泥の床を作る構法が一般的であるが、SHIBAM-5図の3層の農家の1階は、太い土の柱をつなぐ土のアーチが作られていた。塔状の住居の排水系統は、建物の中に区画された排水ダクト空間が地上へのび、そこが家畜のスペースとなっており、よく工夫されている。現在は、配管によって全体をまとめているようである。

2. ダル・アル・ハジャル DAR AL HAJAR (ロックパレス)

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-9~10参照)

ワディ・ダハールは、サヌアの北西約15キ

ロメートルに位置する。ここに昔のイエメンの支配者イマームのために建てられた夏の別荘、ロック・パレスがある。文字通り、岩の上に立てられた宮殿であるが、現在は、国が管理して修復保存中である。この宮殿も下層の2~3層分は石を組み上げているが、その上は日干しレンガを積み上げている。大きく取った窓の上にはカマリア（半月窓）窓が並び、細かい色ガラスを組み込んだステンドグラスとなってインテリアに柔らかい色光を落としている。最上階のサロンから眺める谷は、緑で覆われ、その中にやはり塔状の住居が立ち上がっている。ダハール谷も周りは荒い岩山が立ちはだかり、緑のじゅうたんと対比が特異である。

3. サヌア SANA'A

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-11~14参照)

サヌアは標高2300メートルの高原盆地に立地する都市で、イエメン共和国の首都である。その中心は政治の中心施設が立ち並ぶターヒル広場である。5つの門と64のミナレットを持つ町オールドサヌアの中心でもあった。しかし現在のサヌアの旧市街は、ターヒル広場から東側である。サヌアの住居も、塔状に作られ、その階数は、5,6階から8階に及ぶ。シバームと違うところは、下階2層くらいを石造りで組み上げその上層を日干しのレンガで積み上げていく構法である。

旧市街の中心はスークである。グレートモスクを中心に城門から城門へ連続した領域としてスークゾーンが設定されている。高層住棟の間に低層の商業施設が配置され、それぞれの部分に小さな広場が配されている。金曜の安息日以外は、人でごった返す。旅行者以外の女性の姿はほとんど見ることが出来ない。

旧市街の中に菜園が造られている。これは都市が防衛していた時代に自立する都市を目指して建設した頃から続いているのであろう。また、

旧市街を貫通してワディとよばれる川がある。これは、雨が降れば川となるが、日常的には、水は少なく、子供達の水遊び場でもあり、道路としても機能する多目的なバッファゾーンとなっている。

4. コーカバン・シバーム KAWKABAN・SHI-BAM

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-15~16参照)

コーカバン・シバームは、中央高地の兄弟都市である。ハダラマートのシバームと同名であるが、全く異なる。(イエメンにはシバームという都市は3つあるそうである) 山上のコーカバンが守りを、低地のシバームが生産を担当したという。上と下をつなぐ歩行のルートが今でも生きているが、立派な舗装道路が外周につきアプローチは簡単となってしまった。

山上のため、天水をためる貯水池が生きるために不可欠な要素として中央のモスク脇に作られ、全体の中心施設となっている。両都市共に、都市の構造をなす要素は城門からグレートモスクへ至るルートとそこに立地するスーク(商業)ゾーンである。シバームは、旧市街と新市街を分ける部分に城門があり、住居の形態も若干異なっている。城門の内側にオールドスークがあるが、現在は、城門の外側のスークが活性化され、広い空間のもとで自由に交易を行っている。コーカバンは500人程度の住人しか住んでいないが、シバームははるかに大きな市域を構成している。周囲は、平坦な農耕地が広がる。標高差約350m。上り1時間、下り30分を住人はいともたやすく登り降りするという。

5. ハジャラ HAJ JARAH

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-17~18参照)

ハジャラは中央高地帯の標高2300mに立地する自然の要塞としての景観を有する山岳都市である。5から6階の石造りで林立した塔状住居が風景をつくっている。サヌアから西へ50km程

のmanaハから5キロほどで到着する。遠くから見ると岩肌と区別がつかない。内部の人口は400人ほど。要塞の内部は、入り組んだ細い路地と建て込んだ塔状住居がひしめき合っており、車は中へ入れない。一番高い部分に広場らしいものがあるが、内部にモスクはない。城門は一つ。しかも、石で組まれた堅固な城門である。塔状住居の中の排水系統は、現在は、配管を通してのものが多くなっているが、昔は、建物に石造りのダクトが組み込まれている形式となっており、上階部分にもトイレが配置されているものがある。山岳都市であるため、水は天水をためる貯水池が重要な意義を持っていたが、現在はポンプアップして城壁内のそれぞれの住居の近くに金属製の貯水タンクを設置している。

6. スーラ THULA

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-19~20参照)

スーラは、サヌアの北西54km。巨大な岩山を背にしているが、頂上部分は現在、軍事要塞となっており接近不可能である。集落は、城壁で囲われ石造の塔状住居が密集しており、スークは、城門の脇に広がる。守りの体制を強く示した集落景観となっている。全体を囲む城壁がよく残っており、城塞都市の様相を示している。スーラの住居は全部石造である。切石の色の違いを利用して模様を造って住居が多い。また、開口部に思い思いの装飾的扱いを取り込んで個性を出している。

7. クーラン KUHLAN

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-21~22参照)

サヌアから北へ抜ける幹線は、アムラン、サーダを経由してサウジアラビアへ抜けていく。アムランから西へそしてホデイダへ抜けるルート沿いにクーランが位置している。山岳地帯で塔状住居は石積みで作られている。周囲は、ネパールを想わせる段々畑が広がり、丘陵地のあ

ちここに塔状住居の集落が覗いている。クーラ
ンは、尾根筋の南斜面に集落が立地し、最高部
にシタデルが配置され、最下部に行政施設とモ
スク、スークが並ぶ中心地区がある。住居は45
度に近い斜面にへばりついている。自然地形と
しての城塞である。

8. タウィラー TAWILAH

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-23~24参照)

タウィラーは、街道筋にある小都市であるが、
その景観は独特である。尾根筋の岩山に沿った
斜面に立地するが、その中心となる道は斜面の
等高線に沿って造られている。集落の中は階段
が至るところにあり、市街地景観は、見上げの
空間と見下ろしの空間の連続である。メインス
トリートはスークの領域となっている。通りに
沿って商店が並ぶスークと広場を造ってその周
りに商店が配置されているものと両方を持って
いる。メインストリートに沿った所に学校があ
り、比較的歴史的な建造物として残っている。
住居は塔状で石造である。

9. サユーン SAIYUN

(YEMEN-VILLAGES AND CITIES-25~26参照)

ハダラマートの谷の中心としてサユーンは位
置している。サヌアから飛行機で約1時間飛ぶ
とサユーンの飛行場に着く。その間機上からハ
ダラマートの谷を観察できるが、巨大な谷筋の
中にいくつもの集落が見られる。そのなかにシ
バームも位置している。サユーンは、人口3万
人の都市で、周辺にはヤシの林が多く百万のヤ
シに囲まれた町と呼ばれているようである。

サユーンの町の中心は、スルタンの王宮であ
るが、現在は、博物館として機能している。王
宮の裏にモスクがあり、その両者に囲まれた広
場が配置される。王宮から東側は、スークが立
ち並び、その裏に墓地が立地している。墓地の
中に、エメラルドグリーンのドームを持つモス
クがある。スークの前の広場は、交通広場を兼

ね雑然としている。

(7) おわりに

1994年から1995年にかけて2年かけてよう
やっと目標を達成することができた。もともと
この研究は、住宅総合研究財団から研究助成を
受けてスタートされたものであるが、第1回の
調査で内戦に遭遇したために研究成果を取りま
とめることが遅れてしまったのである。最終的
に今回のまとめを行うことによってその幾分か
をなし得たと考えている。というのも、当初は、
3月に20日あまりかけて調査する予定だった
ものが、1人の単独調査で10日間という短期
間に終わってしまったことは、実質的に満足行
くものとなり得ないことは分かり切っているこ
とであろう。

今後再度イエメンの地を踏むことができる機
会があったならば、この調査結果をさらに豊富
なものにすることができると確信を持っている
ものである。

文献リスト

1. YEMEN, Dominique Champault, Phebus, 1993
2. THE VALLEY OF MUD BRICK ARCHITECTURE, Jackie Jones, Garnet Publishing Limited, 1992
3. YEMEN REDISCOVERED, Michael Jenner, Longman Group Limited, 1983
4. LES MAISONS TOURS DE SANA'A, Paul Bonnenfant, PRESSES DU CNRS, 1989
5. YEMEN ARCHITECTURE MILLENAIRE, Institut du Monde Arabe
6. ART OF BUILDING IN YEMEN, Fernando Varenda, aarp, 1982
7. SANA'A: PARCOURS D'UNE CITE D'ARABIE, Pascal Marechaux, Institut du monde arabe, 1987
8. DEVELOPMENT AND URBAN META-

- MORPHOSIS Vol.1 YEMEN AT THE CROSSROADS, The Aga Khan Award for Architecture, Concept Media Pte Ltd Singapore, 1983
9. HADRAMAUT, Karl-Heinz Bochow /Lothar Stein, VEB F.A.Brockhaus Verlag Leipzig, 1986
 10. TOURIST GUIDE OF YEMEN ARAB REPUBLIC, Ministry of Information and Culture General Tourism Corporation
 11. TRAVELLER'S GUIDE TO YEMEN, Yemen Tourism Company, 1983
 12. LONELY PLANET YEMEN, Lonely Planet Publications Pty Ltd, 1988
 13. INSIGHT GUIDES YEMEN, Joachim Chwaszcza, APA Publications (HK) Ltd, 1992
 14. ARCHITECTURE MAGAZINE at 1955 OCT., デルファイ研究所, 1995
 15. イエメン もうひとつのアラビア, 佐藤寛, アジア経済研究所, 1994
 16. 地球の歩き方 アラビア半島, 地球の歩き方編集室, ダイヤモンド・ビッグ社, 1994
 17. NHK海のシルクロード第2巻 ハッピーアラビア/帆走, シンドバッドの船, 森本哲郎・片倉もところ・NHK取材班, 日本放送出版協会, 1988
 18. 写真集NHK海のシルクロード第1巻 地中海・ナイル・紅海, NHK取材班, 日本放送出版協会, 1988
 19. イスラム事典, 株式会社平凡社, 1982
 20. トラベルダイジェスト APRIL 1989, トラベルダイジェスト出版株式会社, 1989
 21. YEMEN 私の愛するイエメン, 杉村公子, 光村印刷株式会社, 1994